

綾部市第6次総合計画
後期基本計画
<資料編>
(案)

綾部市

目次

綾部市の現状と課題.....	1
1. 第6次綾部市総合計画（前期基本計画）の成果.....	1
2. 第6次綾部市総合計画（前期基本計画）の評価まとめ.....	5
3. 基礎的状況把握からみるポイント.....	13
①人口の動向.....	13
②性別・年齢別人口動向.....	15
③自然動態・社会動態等の状況.....	16
④産業の状況.....	21
⑤財政の状況.....	24
4. 各種意識調査等からみるポイント.....	25
①市民意見交換会の結果概要.....	25
②高校生意見交換会の結果概要.....	27
③住民意識調査の結果概要.....	29
④中生意識調査の結果概要.....	37
⑤企業従業員（市外在住）意識調査の結果概要.....	38

綾部市の現状と課題

1. 第6次綾部市総合計画（前期基本計画）の成果

第6次綾部市総合計画前期基本計画の計画期間である、令和3（2021）年度から令和7年（2025）までの5年間に於いて、以下の総合的な課題への対応をはじめとして、各種施策に取り組み、一人ひとりの夢や希望を実現できるまちづくりを進めました。

1. 市民の健康な暮らしを守る 【医】

- ・ ひとり暮らしの高齢者や障害者の見守りが継続して行われるように、見守りサービス利用者の支援事業を実施
- ・ 複雑化・複合化した課題を抱えた世帯や潜在的な支援ニーズを抱える人や世帯へ必要な支援が届くよう包括的な相談支援と地域づくりを行う重層的な体制整備の検討を開始
- ・ 成年後見制度を必要とする方が利用できるため、綾部市成年後見支援センター（こうけん・あやべ）を設置し、制度の周知や相談しやすい体制を整備
- ・ 生活困窮者に対して食料品や生活物資を支給し、困窮課題に応じた相談支援窓口につなぐ「ライフラインバンク」事業を支援
- ・ 母子保健情報の管理等ができる母子手帳アプリ「あやっこナビ」を導入
- ・ 全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を実施することも家庭センターを整備
- ・ 子どもの遊び場や地域子育て支援機能の充実を図り、子どもの健全な育成を支援する地域子育て支援拠点施設「あやっこひろば」を整備
- ・ 不妊治療を受けている夫婦の経済的負担を軽減し、妊娠を望む夫婦が治療を受けやすい環境を整備するため、不妊治療に対する助成を拡充
- ・ 子育て世帯を支援するため、乳幼児及び小学生、中学生の通院・入院に係る医療費支援を高校生の入院も対象に拡充
- ・ 保育所や小・中学校など給食費に係る経済的負担を軽減し子育て環境の充実を推進
- ・ 少子化対策や定住促進を図るため、新婚世帯や子育て世帯の経済的負担に対する支援を実施
- ・ 病気や病気の回復期の児童等を一時的に預かる病児保育を実施
- ・ 放課後学級事業を民間事業者へ運営委託することにより、更に保護者に寄り添うサービスを提供
- ・ 発達に支援が必要な子どもやその家族に対し、切れ目のない支援を提供できる体制の強化・充実を図るとともに、総合的に支援することも発達支援施設「あいむ」を整備
- ・ 介護が必要な状態になっても、高齢者ができるだけ住み慣れた地域で生活を継続できるよう介護事業者による基盤整備を支援
- ・ 高齢者の健康増進と教養の向上やレクリエーションの場として清山荘の管理運営を行う

とともに、施設改修を計画的に実施

- ・ 障害者相談支援事業において基幹相談支援センターの設置や相談支援専門員の増員により体制を強化
- ・ 障害のある人が住み慣れた地域で安心して生活が続けることができるようグループホームなどの整備を支援
- ・ 市民の健康づくりに活用できる健幸サポートアプリ「AYATOCO」を導入
- ・ 健（検）診内容の充実を図り、病気の早期発見、早期治療、重症化予防を推進
- ・ 感染症の予防や蔓延防止、感染による重症化をするため、予防接種を拡充
- ・ 京都府、京都府立医科大学など関係機関の連携による質の高い医療と効率的な病院運営、さらに新たな感染症に対する医療体制を推進

2. 誰もが活躍できる雇用の確保 【職】

- ・ 担い手への農地の集積、集約を加速させるため、大区画化等の基盤整備を促進
- ・ 持続可能な地域農業の推進と農業経営力の向上を図るため、認定農業者の経営を発展させる取組を支援
- ・ デジタル技術の導入による農作物生産の作業性と生産効率の向上を促進
- ・ 安全な暮らしにつながる山林の適正な管理に努め、土砂災害等の防止に資するため、個人や林業経営体による森林整備等を支援
- ・ 空き店舗活用への支援の拡充により、新規出店を促進
- ・ ものづくり企業等が行う雇用・定住促進、販路拡大、生産性向上等の取組を支援
- ・ 北部産業創造センターを拠点にものづくり企業の技術力向上等を支援
- ・ 市内事業所の情報に特化したホームページ「ジョブタンあやべ」を整備し、若者の地元就労と定住促進のための情報発信を強化
- ・ 一体的かつ総合的な雇用対策に取り組むため京都労働局と雇用対策協定を締結
- ・ 多様な働き方を希望する求職者の就職促進を図るための企業就職面接会を実施
- ・ 気軽に就職相談を受けることができるよう市役所での「出張ハローワーク」を開催
- ・ 雇用の確保とＵＩターン促進のため、綾部市及び近隣市町の所在する事業所の合同就職フェアを開催
- ・ 市内企業等を対象に人材確保・労働環境改善を図るためのセミナーを実施
- ・ 就職情報提供希望者に対して、郵送にて就職に関する情報を提供
- ・ 地域交流センターを整備することにより、地域住民や市内企業、各種団体等の活動を支援
- ・ 公共交通のドライバー不足対策として、受験資格特例教習補助金や公共交通人材確保補助金に取り組む協議会の活動を支援

3. 人口減少社会への対応と暮らしの安全・安心の確保 【住】

- ・ 綾部市人権尊重のまちづくり条例を制定
- ・ パートナースhip制度の創設など、一人ひとりの尊厳と人権が尊重されるまちづくりを推進
- ・ 大規模災害時の避難所体制強化を図るため備蓄物資・防災倉庫及びトイレトラックを整

備

- ・ 災害時に適切・確実な避難ができるよう避難誘導表示板及び原子力災害時避難退域検査場所を整備
- ・ 災害に備えた地域の避難行動タイムラインの作成を促進
- ・ 原子力災害等に備えた避難路確保のため、ヘリポート及び小浜綾部線（大町バイパス）の整備を促進
- ・ 市街地への越水防止対策として由良川堤防（並松地区）の整備を促進
- ・ 西部地域における地域防災力の強化及び行政サービスの利便性向上を図るため、消防防災拠点施設と地域振興支援センターを整備
- ・ 舞鶴市と共同で「はしご自動車」を整備
- ・ 災害現場において事態の早期収束を図るため、ドローンを活用した情報収集体制を確保
- ・ 防犯カメラの更新や設置補助金の交付により、安全・安心のまちづくりを推進
- ・ 自治会活動活性化推進費補助金等により自治会活動を支援
- ・ 市民団体等の新たな活動拠点として「ハート交流センター」を整備
- ・ 消防・救急体制の充実を図るため、京都府中・北部地域の6消防本部・組合で共同運用する消防指令センターを整備
- ・ 2050年までに二酸化炭素排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の推進
- ・ 高齢者が安心して生活できるよう、ごみ出し支援やスマホ教室などを実施
- ・ 里山交流研修センターの施設機能の充実を図るとともに、農村都市交流を推進
- ・ 府内で初めて、地域の様々な仕事への人材派遣を行う特定地域づくり協同組合を設立
- ・ 国道27号の道路拡幅（肥後橋改修含む）・歩道拡幅整備を促進
- ・ 歩行者や車が安全で快適に移動できるよう、宮代豊里線（井倉踏切）や上野試験場線を整備
- ・ 市民活動や憩いの場となり、様々な世代が集い新たなふれあいやにぎわいを生み出す都市公園「あやパーク」を整備するとともに、平和を象徴するモニュメントを設置
- ・ 交通空白地有償運送に対する支援など、地域交通の確保対策を推進
- ・ 良質で安定した飲用水の確保と快適で住みよい生活環境の充実を図るため、水道未給水区域の給水施設整備費及び水質検査費用を支援

4. 次代を担う子どもの育成 【教育】

- ・ さまざまな障害のある児童生徒に対する支援を行うため、特別支援教育支援員体制を充実
- ・ 学力の向上を目指し、タブレット端末の効果的な活用や英語4技能テスト導入、認知・非認知能力を一体的に育成する研究を推進
- ・ 校内教育支援センターを大規模校に設置し、不登校や教室に入りにくい児童生徒の学びの場を確保
- ・ 部活動地域移行に取り組み、多様な活動を体験できる機会を提供
- ・ 学校給食の調理業務の一部委託化により安定した給食の提供を実施
- ・ エレベーターや多目的トイレの設置等、学校施設のバリアフリー化を推進
- ・ 保護者の利便性向上や教職員の働き方改革の推進のため、保護者連絡システムを導入

- ・ 小規模特認校制度の導入に向けて制度設計と市民への周知を実施
- ・ 教育機会の充実を図るため市民公開講座を開催し、学びのきっかけづくりを推進
- ・ 市民に親しまれ気軽に利用できる図書館を整備
- ・ 生涯学習の出会いと発見の場として天文館の活用、天文教育の普及を図るため施設等を整備
- ・ 地域のスポーツ活動や交流の促進を図るため、大会のサポートや賑わいづくりの取組を支援
- ・ あやべ・日東精工スタジアムや総合運動公園、市民プールなど施設及び設備を改修
- ・ 公共交通の魅力や楽しさ、必要性等を体験できるよう、あやバスの中学生以下運賃無料化を実施

5. 市の魅力向上と効果的な情報発信 【情報発信】

- ・ 常熟市との友好都市締結35周年を迎え、常熟市へ公式訪中団を派遣するなど国際交流を推進
- ・ 市制施行75周年を祝して、記念式典の開催や市民団体等が実施するイベント等を支援
- ・ 誰もが親しみやすいホームページにリニューアルし、広報活動の強化を推進
- ・ 地域情報アプリの構築や、市議会のライブ中継の拡充等、誰もが等しく行政・防災・地域情報を取得できる体制を確保
- ・ 各種証明書のコンビニ交付システムを導入するなどスマート自治体を推進
- ・ 市史をまとめたことにより、ふるさとへの誇りを育み、郷土愛の醸成を促進
- ・ 黒谷町に無形文化財である黒谷和紙の生産施設と体験機能を持つ新拠点施設の整備に着手
- ・ 「あやべ水源の里トレイルラン」を契機とした地域のにぎわいづくりとスポーツ観光を推進
- ・ あやべ温泉等の利便性を高め集客力強化を図るため、キャンプ場等を整備
- ・ ドラマ「アリスさんの囲炉裏端」のロケ地誘致により観光振興を推進
- ・ あやべ地域交流大使の委嘱による地域の魅力発信

2. 第6次綾部市総合計画（前期基本計画）の評価まとめ

1. 評価方法

総合計画（前期基本計画）の構造を踏まえ、各分野別施策に設定している目標指標の達成状況を評価するとともに、各分野別施策に位置付ける項目の取組状況について担当各課による進捗度評価を行い、その積み上げにより計画全体の評価を行います。

目標指標の達成度評価

※各分野別施策に設定された指標ごとの数値目標の達成状況をみる

【参考】第6次綾部市総合計画（前期基本計画）の構造

基本目標 (6)	分野別施策 (29)	施策 (100)	項目 (431)	目標指標 (109)
基本目標 1 平和をねがい祈りのあるまち	1 人権尊重社会の実現	2	9	4
	2 平和の発信と国際交流	2	4	3
	3 防災対策の推進	3	25	5
	4 消防・救急体制の充実	4	22	4
	5 生活の安全性の向上	3	11	4
基本目標 2 自治を高め心のつながりのあるまち	1 市民活動の促進と地域の活性化	2	10	4
	2 男女共同参画社会の実現	2	8	3
	3 情報の発信と共有	4	9	3
	4 健全な行財政運営と広域連携	6	29	2
基本目標 3 教育をたいせつにし文化のかおるまち	1 幼稚園・小・中学校教育の充実	6	32	4
	2 社会教育の充実	4	14	8
	3 青少年健全育成の推進	2	6	2
	4 文化・芸術の振興	2	6	6
基本目標 4 環境をととのえ健康のあふれるまち	1 環境保全と廃棄物対策の推進	6	18	3
	2 地域福祉社会の実現	4	16	2
	3 子育て環境の充実	5	30	3
	4 高齢者福祉の推進	2	11	3
	5 障害者福祉の推進	2	16	4
	6 保健の推進	3	16	5
	7 医療体制の充実	2	10	1
基本目標 5 産業をおこし豊かな暮らしのあるまち	1 農林業・内水面漁業の振興	6	29	5
	2 商工業の振興と雇用促進	3	11	6
	3 観光と交流の推進	4	19	5
	4 移住・定住の促進	3	10	4
	5 スポーツの振興	3	8	4
基本目標 6 計画を定め輝かしいあしたをひらくまち	1 土地利用と市街地の形成	3	13	3
	2 道路・公園の整備	4	15	2
	3 公共交通の充実	3	10	3
	4 上下水道の運営と整備	5	14	4

(1)「目標指標の達成度評価」の手法

目標指標の達成度評価に当たっては、計画に設定された 109 の目標指標の達成率について、次の手法により算出・評価を行い、結果を取りまとめます。

<目標指標の達成率の考え方>

$$\text{達成率} = \frac{\text{最新実績値}}{\text{目標値}}$$

※令和 7 年度までが計画期間であるが、各指標の実績値は現時点の最新（令和 6 年度等）の数値を使用する

上記の方法で算定した各指標の達成率について、次の基準で達成状況を分類。

- ①100%以上：達成率が 100%以上
- ②80%以上：達成率が 80%以上、100%未満
- ③50%以上：達成率が 50%以上、80%未満
- ④50%未満：達成率が 50%未満
- 対象外：関連する事業の実施が中止になった等により、実績値がない指標

2. 総合評価

ここでは「目標指標の達成度評価」の結果から、計画全体の総合評価を取りまとめます。

評価の視点	評価結果
目標指標の達成度評価	計画全体の 109 の指標のうち、達成率は次の通り
	①100%以上：29 指標（26.6%）
	②80%以上：32 指標（29.4%）
	③50%以上：34 指標（31.2%）
	④50%未満：12 指標（11.0%）
	※対象外（集計中含む）：2 指標（1.8%）

評価した計画全体の 109 の指標のうち目標達成率が 80%以上の施策は 61 指標（56.0%）であり、過半数の指標で一定の進捗がみられた。

基本目標 平和をねがい、祈りのあるまち					
指 標	集計区分	基準値 (R 元)	目標値 (R7)	実績 (R6)	
				実績	達成率
1 人権尊重社会の実現					
綾部市は、人権が尊重された豊かなまちになっていると思う人の割合	—	38.5% (H30)	50.0%	31.9%	63.8%
登録型本人通知制度登録者数	—	395 人	1,000 人	711 人	71.1%
人権に関する啓発活動や講演会などへの年間参加者数	—	2,198 人	2,550 人	2,181 人	85.5%
人権福祉センター各種講座参加者数	年間	4,076 人	4,500 人	3,880 人	86.2%
2 平和の発信と国際交流					
綾部市民平和祈願の集い参加者数	—	150 人 (H30)	150 人	100 人	66.7%
世界連邦推進綾部市小・中学生ポスター・作文コンクール応募数	—	399 点	460 点	340 点	73.9%
綾部国際交流協会日本語教室等参加者数	年間	1,130 人	1,130 人	850 人	75.2%
3 防災対策の推進					
防災座談会などの開催数	5 か年累計	105 回 (H27～R 元)	125 回	86 回	68.8%
避難行動タイムライン作成組織数	累計	4 組織	21 組織	56 組織	266.7%
急傾斜地崩壊対策事業・砂防対策事業新規実施箇所数	累計	0 箇所	5 箇所	2 箇所	40.0%
木造住宅耐震診断補助実施数	累計	187 件	270 件	322 件	119.3%
木造住宅改修補助件数	累計	115 件	195 件	180 件	92.3%
4 消防・救急体制の充実					
訓練実施事業所・自治会数（防火座談会を含む）	年間	109 か所	200 か所	141 か所	70.5%
各訓練・行事参加消防団員数	年間	2,983 人	3,000 人	2,973 人	99.1%
綾部市消防団応援の店登録件数	—	105 件	120 件	116 件	96.7%
救命講習受講者数	累計	13,108 人	15,300 人	15,020 人	98.2%
5 生活の安全性の向上					
交通安全啓発活動参加者数	年間	598 人	650 人	767 人	118.0%
防犯啓発活動参加者数	年間	554 人	650 人	399 人	61.4%
あやべ見守り C A R 参加台数	累計	291 台	500 台	538 台	107.6%
消費生活出前講座受講者数	年間	181 人	255 人	95 人	37.3%

基本目標 自治を高め、心のつながりのあるまち					
指 標	集計区分	基準値 (R 元)	目標値 (R7)	実績 (R6)	
				実績	達成率
1 市民活動の促進と地域の活性化					
コミュニティ助成事業数	5 か年累計	36 件 (H27～R 元)	50 件	24 件	48.0%
自治会加入世帯率	—	79.9%	85.0%	75.6%	88.9%
あやバボランティア総合センター登録団体数	—	124 団体	130 団体	130 団体	100.0%
あやバハートセンター利用件数	年間	369 件	400 件	343 件	85.8%
2 男女共同参画社会の実現					
社会全体で男女の地位が平等になっていると思う人の割合 (R6) （「綾部市男女共同参画」に関する市民意識調査（5 年ごとの実施））	—	20.5%	30.0%	16.1%	53.7%
あいアカデミーなど各種講座への参加者数	年間	263 人	300 人	315 人	105.0%
審議会・委員会などにおける女性委員の比率	—	30.0%	40.0%	31.9%	79.8%
3 情報の発信と共有					
綾部市ホームページのトップページアクセス件数	年間	453,191 件	500,000 件	671,871 件	134.4%
F Mいかる・あやバール・地域メルマガ等への市政情報提供件数	—	1,637 件	1,700 件	1,723 件	101.4%
地域メールマガジン登録件数	—	6,144 件	6,700 件	6,455 件	96.3%
4 健全な行財政運営と広域連携					
ふるさと納税件数	年間	910 件	1,400 件	6,046 件	431.9%
企業版ふるさと納税件数	累計	2 件	12 件	35 件	291.7%

基本目標 教育をたいせつにし、文化のかおるまち					
指 標	集計区分	基準値 (R 元)	目標値 (R7)	実績 (R6)	
				実績	達成率
1 幼稚園・小・中学校教育の充実					
小学校と連携した幼稚園教育が実施できていると感じている保護者の割合	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
将来の夢や目標を持つ子どもの割合（中3）	—	64.0%	80.0%	64.3%	80.4%
地域の行事に参加する子どもの割合（中3）	—	67.0%	75.0%	62.3%	83.1%
中学校卒業時の英語検定 3 級以上取得者の割合	—	39.0%	65.0%	39.5%	60.8%
2 社会教育の充実					
高齢者学級参加者数	年間	2,459 人	2,500 人	1,566 人	62.6%
障害者教室参加者数	年間	347 人	350 人	343 人	98.0%
地区公民館利用件数	年間	3,968 件	4,000 件	3,307 件	82.7%
中央公民館利用件数	年間	771 件	780 件	735 件	94.2%
図書館貸出冊数	年間	130,190 冊	186,000 冊	199,398 冊	107.2%
図書館ホームページ及びオンライン蔵書目録アクセス件数	年間	29,086 件	41,000 件	28,000 件	68.3%
天文館利用者数	年間	11,794 人	12,000 人	10,926 人	91.1%
資料館利用者数	年間	2,508 人	2,550 人	2,580 人	101.2%
3 青少年健全育成の推進					
青少年地域活動支援事業補助金交付団体数	年間	29 団体	30 団体	9 団体	30.0%
一斉声かけ参加者数	年間	720 人	850 人	512 人	60.2%
4 文化・芸術の振興					
優良建築物活用事業利用件数	年間	16 件	18 件	15 件	83.3%
市美術展作品出展数	—	266 点	280 点	220 点	78.6%
市美術展入場者数	—	2,557 人	2,600 人	1,544 人	59.4%
総合文化祭作品出展数	—	1,332 点	1,400 点	1,350 点	96.4%
総合文化祭入場者数	—	5,674 人	5,700 人	4,280 人	75.1%
中丹文化会館入場者数	年間	45,060 人	50,000 人	31,945 人	63.9%

基本目標 環境をととのえ、健康のあふれるまち					
指 標	集計区分	基準値 (R 元)	目標値 (R7)	実績 (R6)	
				実績	達成率
1 環境保全と廃棄物対策の推進					
1 人当たりごみ排出量（家庭ごみ）	年間	189kg	180kg	178kg	101.1%
資源物（紙類）回収量	年間	1,041 t	1,500 t	722 t	48.1%
リサイクル推進員研修会参加率	—	57%	65%	33%	50.8%
2 地域福祉社会の実現					
地域福祉活動補助金交付件数	年間	32 件	32 件	22 件	68.8%
シルバー・チャイルドハウス事業実施団体数	年間	6 か所	8 か所	6 か所	75.0%
3 子育て環境の充実					
児童館・児童センター利用児童数	年間	8,590 人	8,600 人	5,934 人	69.0%
保育所、認定こども園への入所（園）希望者の入所（園）率	年間	99.4%	100%	100%	100.0%
ファミリー・サポート・センター会員数	—	120 人	150 人	194 人	129.3%
4 高齢者福祉の推進					
介護職員研修受講補助者数	年間	—	10 人	17 人	170.0%
認知症サポーター養成講座受講者数	累計	11,408 人	13,500 人	12,867 人	95.3%
清山荘入館者数	年間	26,705 人	30,600 人	17,788 人	58.1%
5 障害者福祉の推進					
障害者生活支援事業相談件数	年間	16,393 件	16,400 件	15,835 件	96.6%
障害者介護給付費等支給事業利用者数	年間	5,121 人	5,520 人	5,587 人	101.2%
地域活動支援センター利用者数	年間	956 人	966 人	946 人	97.9%
精神障害者社会復帰相談者数	年間	2,986 人	3,080 人	1,605 人	52.1%
6 保健の推進					
乳幼児健康診査受診率	年間	97.3%	98.5%	98.3%	99.8%
あやちゃん健康ポイント事業取組人数	年間	1,185 人	1,325 人	963 人	72.7%
がん検診受診率	年間	18.8%	22.0%	19.8%	90.0%
特定健康診査受診率	年間	34.6%	60.0%	集計中	集計中
国民健康保険料収納率	年間	96.57%	97.00%	96.43%	99.4%
7 医療体制の充実					
奨学金貸与人数（医師）	5 か年累計	4 人 (H27～R 元)	5 人	0 人	0.0%

基本目標 産業をおこし、豊かなくらしのあるまち					
指 標	集計区分	基準値 (R 元)	目標値 (R7)	実績 (R6)	
				実績	達成率
1 農林業・内水面漁業の振興					
京力農場プラン策定集落数	累計	41 集落	47 集落	51 集落	108.5%
認定農業者数（個人・法人）	年間	48 経営体	55 経営体	55 経営体	100.0%
新規就農者数（支援事業活用分）	累計	66 人	73 人	69 人	94.5%
有害鳥獣被害面積	年間	2,356a	1,154a	2,705a	42.7%
森林経営管理権集積計画	累計	0 団地	6 団地	2 団地	33.3%
2 商工業の振興と雇用促進					
空き店舗活用支援事業支援件数	累計	4 店	10 店	14 店	140.0%
チャレンジショップ支援事業費補助金 交付件数	累計	45 店	59 店	62 店	105.1%
（一社）綾部工業研修所卒業者数	累計	1,750 人	2,030 人	1,904 人	93.8%
北部産業創造センター内の機械貸付件 数（市内企業）	年間	356 件	460 件	281 件	61.1%
事業所実態調査総売上額	年間	1,434 億円	1,580 億円	1,530 億円	96.8%
ふるさと就職支援情報発信事業提供者数	累計	598 人	750 人	767 人	102.3%
3 観光と交流の推進					
日帰り観光客数	年間	548,813 人	560,000 人	445,376 人	79.5%
宿泊観光客数	年間	50,230 人	58,500 人	43,433 人	74.2%
水源の里指定集落における都市交流人口	年間	20,912 人	28,800 人	6,771 人	23.5%
里山ねっと・あやべ交流事業参加者数	年間	2,775 人	7,000 人	2,759 人	39.4%
あやべ特別市民制度登録者数	—	1,858 人	2,000 人	1,451 人	72.6%
4 移住・定住の促進					
定住世帯数（定住サポート総合窓口扱い）	累計	242 世帯	360 世帯	413 世帯	114.7%
ここらへんのことつたえ隊隊員数	累計	25 人	110 人	43 人	39.1%
水源の里への定住世帯数	累計	29 世帯	41 世帯	55 世帯	134.1%
水源の里指定集落数	累計	17 集落	23 集落	21 集落	91.3%
5 スポーツの振興					
市民駅伝参加登録チーム数	—	127 チーム	130 チーム	89 チーム	68.5%
二王門登山レース参加登録者数	—	834 人	850 人	463 人	54.5%
スポーツ少年団加入率	—	19.9%	20.0%	12.1%	60.5%
スポーツ施設利用者数	年間	158,911 人	206,000 人	235,721 人	114.4%

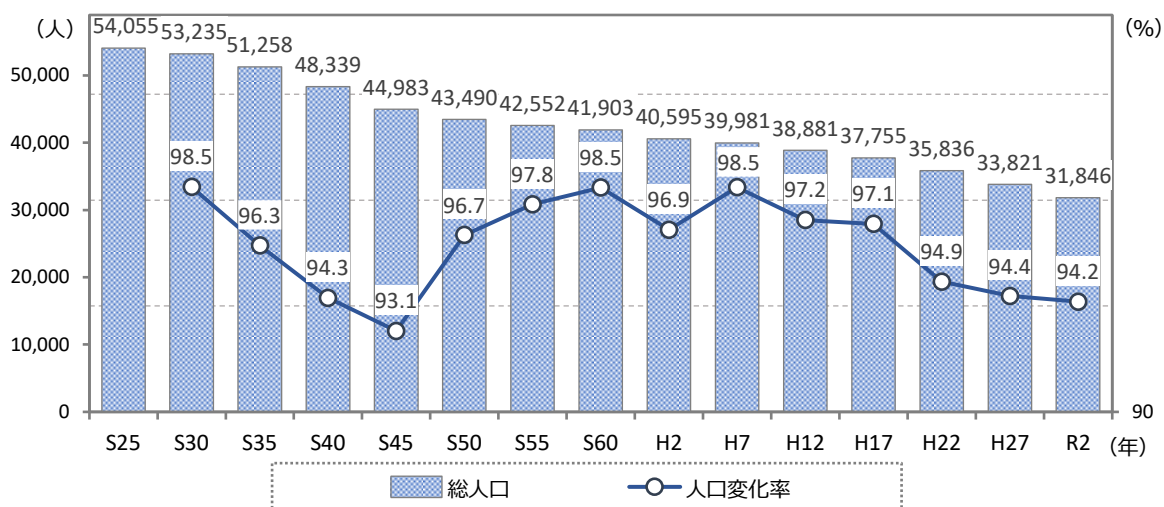
基本目標 計画を定め、輝かしいあしたをひらくまち					
指 標	集計区分	基準値 (R 元)	目標値 (R7)	実績 (R6)	
				実績	達成率
1 土地利用と市街地の形成					
地籍調査完了面積	累計	11.41k ㎡	11.98k ㎡	11.71k ㎡	97.7%
あやべ桜が丘団地販売区画数 (R6)	累計	432 区画	456 区画	444 区画	97.4%
借上型市営住宅の整備戸数	累計	34 戸	90 戸	84 戸	93.3%
2 道路・公園の整備					
橋りょう長寿命化修繕計画に基づく橋りょう補修数	累計	7 橋	27 橋	21 橋	77.8%
公園施設長寿命化計画に基づく都市公園遊具更新率	累計	35.6%	59.3%	67.8%	114.3%
3 公共交通の充実					
あやバス乗車人数	年間	197,412 人	205,000 人	175,149 人	85.4%
鉄道利用通学費補助金利用者数	年間	59 人	70 人	29 人	41.4%
パーク＆レール利用件数	年間	13,475 件	14,000 件	事業廃止	対象外
4 上下水道の運営と整備					
水道普及率	—	98.5%	98.8%	98.7%	99.9%
上水道管布設替え延長	年間	988m	2,000m	1,446m	72.3%
汚水処理人口普及率	—	83.9%	85.2%	87.3%	102.5%
水洗化率	—	74.8%	76.4%	78.7%	103.0%

3. 基礎的状況把握からみるポイント

①人口の動向

人口の推移を昭和 25（1950）年～令和 2（2020）年の間で見ると、本市では、市制施行の昭和 25（1950）年以降、人口減少が続いており、昭和 25（1950）年の 54,055 人から令和 2（2020）年には 31,846 人と 70 年間で 22,209 人（41.1％）減少しています。昭和 25（1950）年以降、昭和 45（1970）年頃まで人口減少が加速していますが、要因として、高度経済成長期に伴い他の地域（京都市・東京圏等）へ大規模な人口流出が考えられます。

■市の総人口と人口変化率の推移（昭和 25（1950）年～令和 2（2020）年）

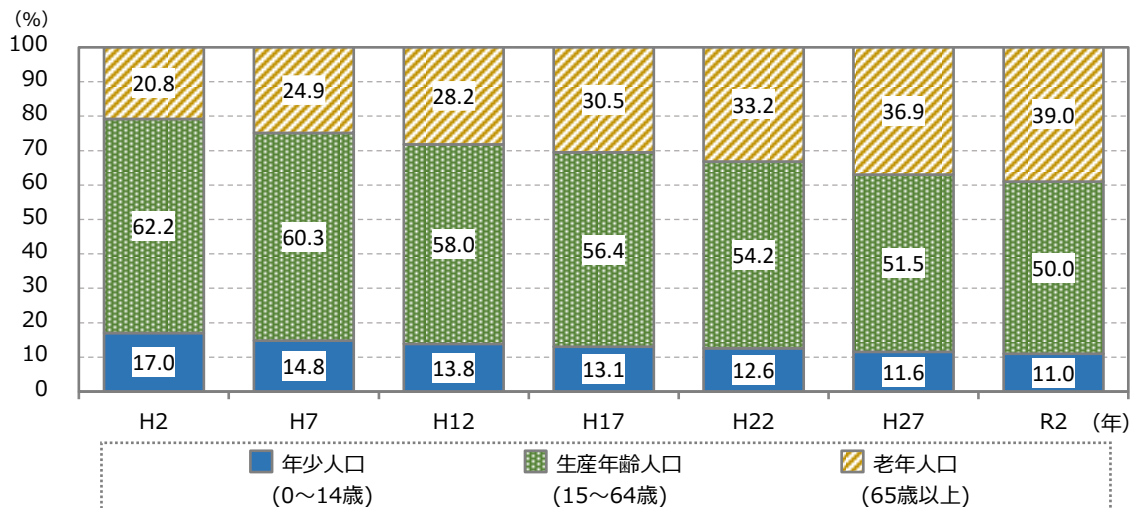


資料：総務省「国勢調査」※人口変化率は 5 年前の人口を 100％とした場合の変化率

■市の年齢 3 区分別人口の割合の推移（平成 2（1990）年～令和 2（2020）年）

市の年齢 3 区分別人口の割合の推移を平成 2（1990）年～令和 2（2020）年の間で見ると、年少人口（15 歳未満）、生産年齢人口（15 歳～65 歳未満）の割合は減少、老年人口（65 歳以上）の割合は増加しています。

平成 2（1990）年と令和 2（2020）年と比較すると、年少人口は 6.0 ポイント（3,453 人）の減少、生産年齢人口は 12.2 ポイント（9,457 人）の減少、老年人口は 18.2 ポイント（3,870 人）の増加となっており、少子高齢化が進行していることが分かります。

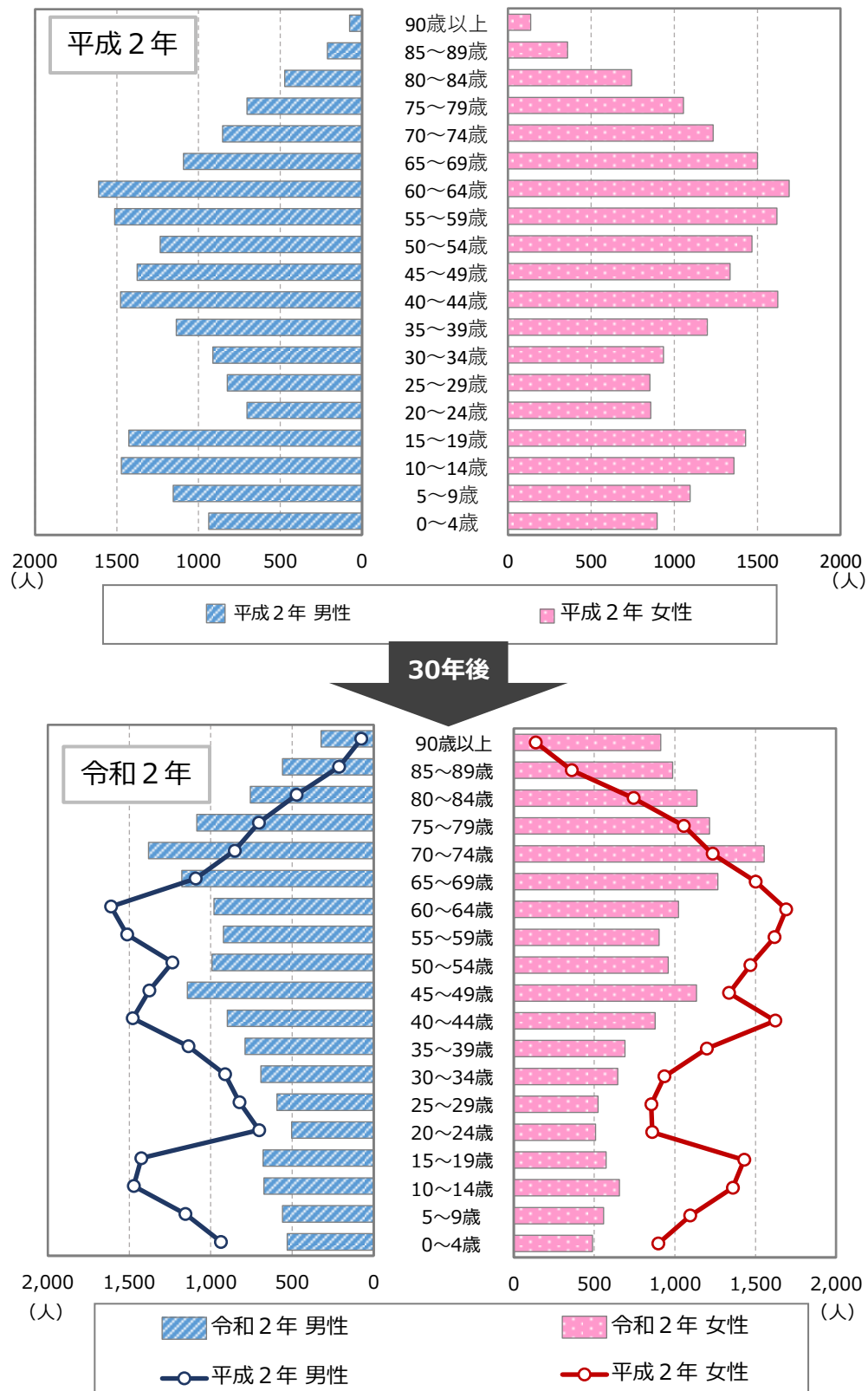


資料：総務省「国勢調査」

■市の5歳階級別人口構造

平成2（1990）年と令和2（2020）年の市の年齢5歳階級別の人口構造を比較すると、平成2（1990）年では若い世代を中心に膨らみをもつ「星型」であったのに対し、令和2（2020）年では老年人口のうち、特に70～74歳に膨らみを持つ「つぼ型」に変化しています。

【平成2（1990）年・令和2（2020）年】

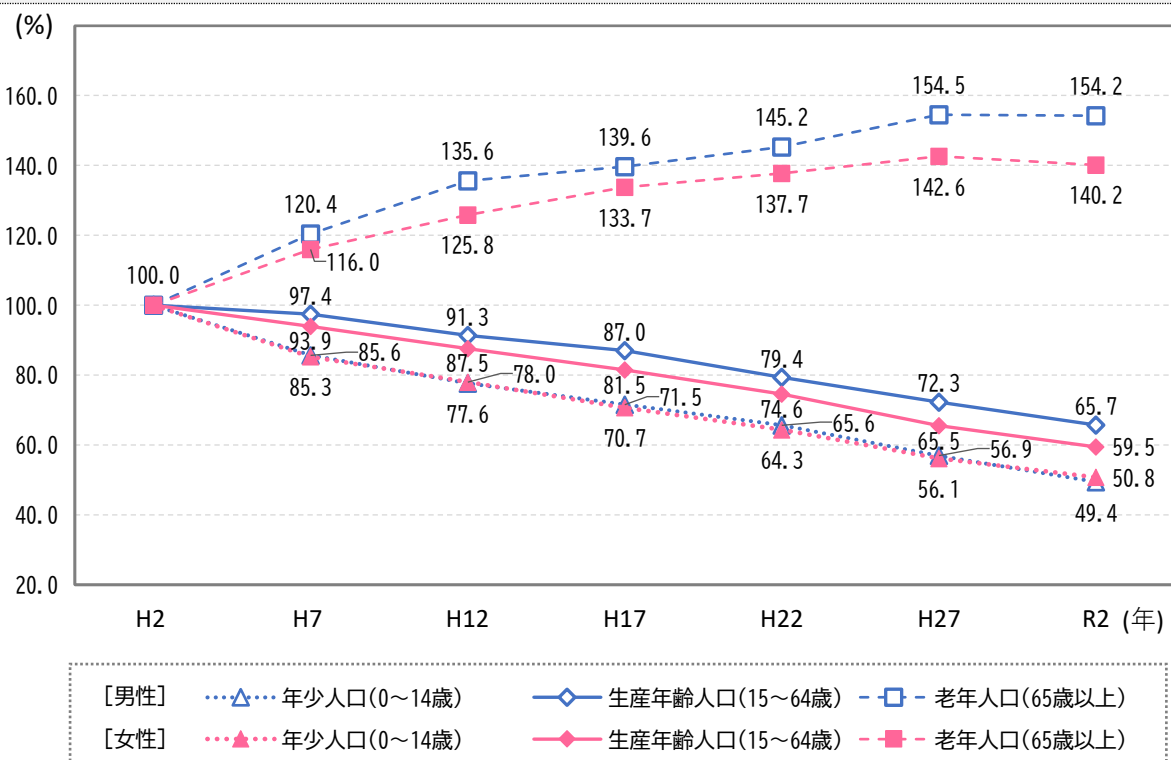


資料：総務省「国勢調査」

②性別・年齢別人口動向

■男女別人口変化指数の推移（平成2（1990）年～令和2（2020）年）

平成2（1990）年の人口を100とした場合の性別・年齢3区分別の変化指数を見ると、令和2（2020）年の総数は男性が78.4、女性が77.1となっています。一方で、老年人口について、男性が154.2、女性が140.2、生産年齢人口については男性が65.7、女性が59.5と女性の減少が大きくなっています。



(単位：人)

			平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
男性	人口	総数	19,197	19,067	18,548	18,031	17,036	16,197	15,239
		0～14歳	3,564	3,052	2,766	2,550	2,339	2,029	1,761
		15～64歳	12,216	11,903	11,154	10,627	9,698	8,829	8,029
		65歳以上	3,410	4,105	4,624	4,762	4,953	5,270	5,259
		年齢不詳	7	7	4	92	46	69	190
	変化 指数	総数	100	99.3	96.6	93.5	88.5	84	78.4
		0～14歳	100	85.6	77.6	71.5	65.6	56.9	49.4
		15～64歳	100	97.4	91.3	87	79.4	72.3	65.7
		65歳以上	100	120.4	135.6	139.6	145.2	154.5	154.2
女性	人口	総数	21,398	20,914	20,333	19,724	18,800	17,624	16,607
		0～14歳	3,351	2,857	2,614	2,368	2,156	1,881	1,701
		15～64歳	13,008	12,215	11,386	10,603	9,698	8,520	7,738
		65歳以上	5,033	5,838	6,332	6,730	6,931	7,178	7,054
		年齢不詳	6	4	1	23	15	45	114
	変化 指数	総数	100	97.7	95	92.1	87.8	82.2	77.1
		0～14歳	100	85.3	78	70.7	64.3	56.1	50.8
		15～64歳	100	93.9	87.5	81.5	74.6	65.5	59.5
		65歳以上	100	116	125.8	133.7	137.7	142.6	140.2

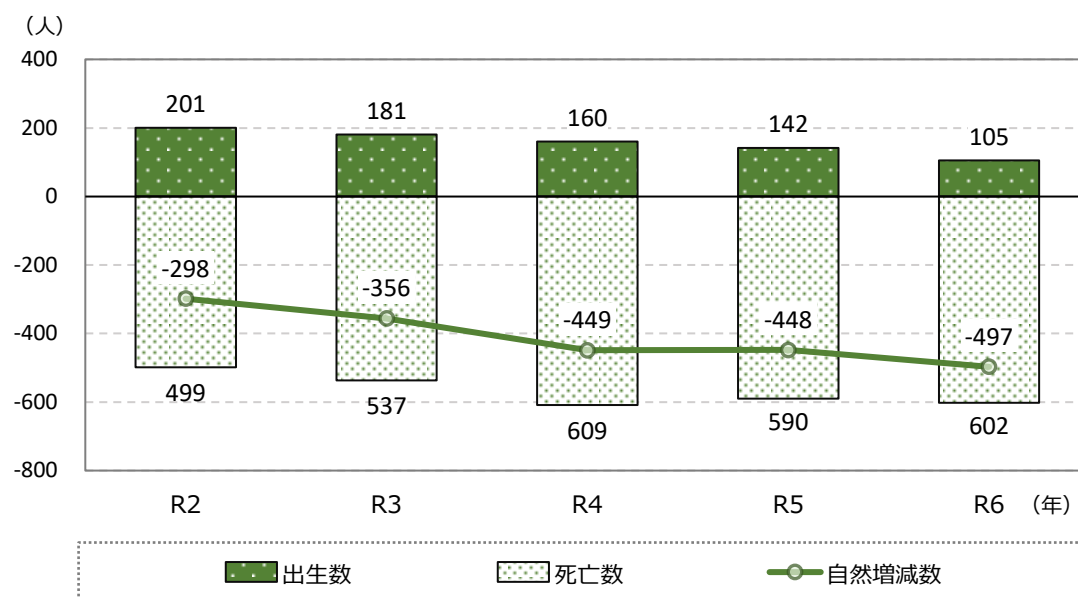
資料：総務省「国勢調査」※変化指数は年齢不詳を除いて算出

③自然動態・社会動態等の状況

自然増減（出生数と死亡数の差）を令和2（2020）年～令和6（2024）年の間で見ると、自然減で推移しています。また、出生数は減少傾向で死亡数は微増で推移しており、自然増減はマイナス300～500人前後で推移しています。

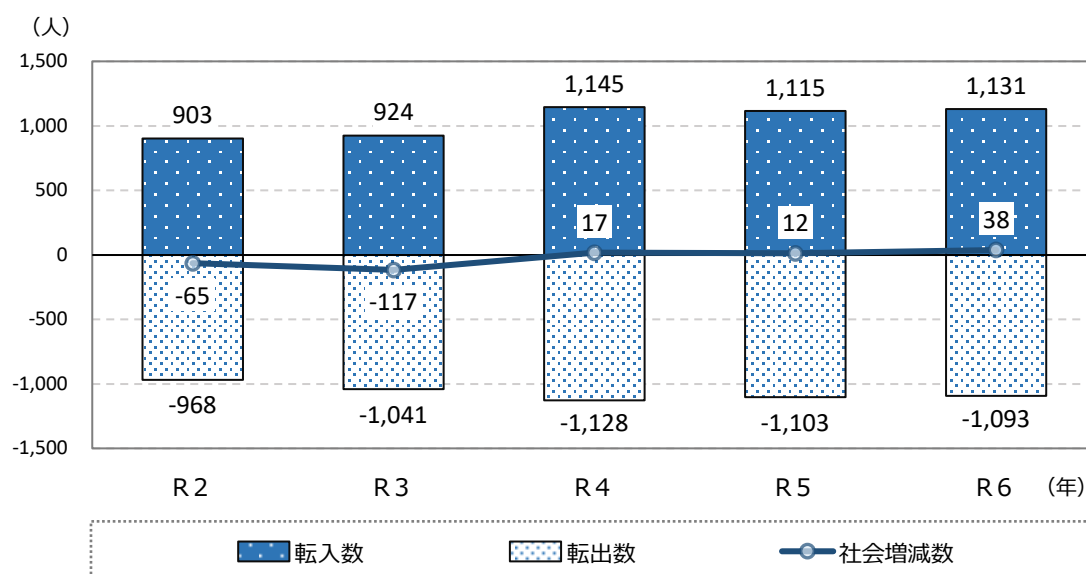
社会増減（転入数と転出数の差）を令和2（2020）年～令和6（2024）年の間で見ると、令和3（2021）年までは転出者が転入者を上回る社会減で推移していましたが、令和4（2022）年は17年ぶりに社会増となり、それ以降、社会増で推移しています。

■自然増減の推移（令和2（2020）年～令和6（2024）年）



資料：総務省「住民基本台帳」

■社会増減の推移（令和2（2020）年～令和6（2024）年）

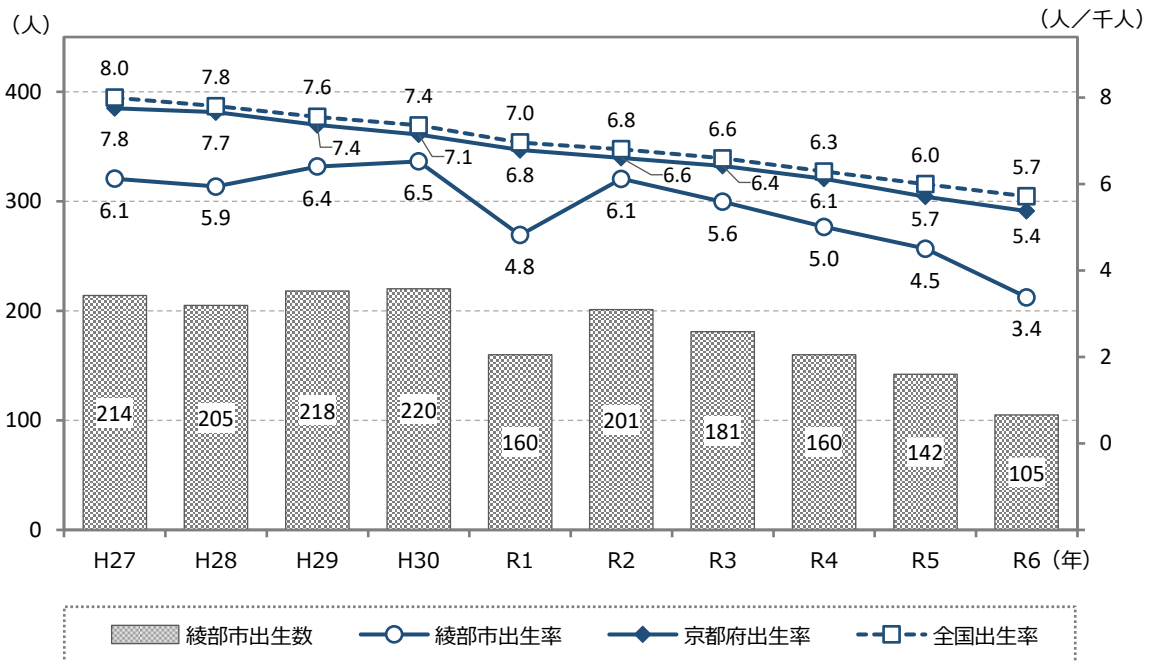


資料：綾部市市民・国保課

出生数・出生率の推移を平成 27（2015）年～令和 6（2024）年の間で見ると、出生率は、全国及び府と比較して下回って推移しており、令和 6（2024）年の出生数は 105 人となっています。

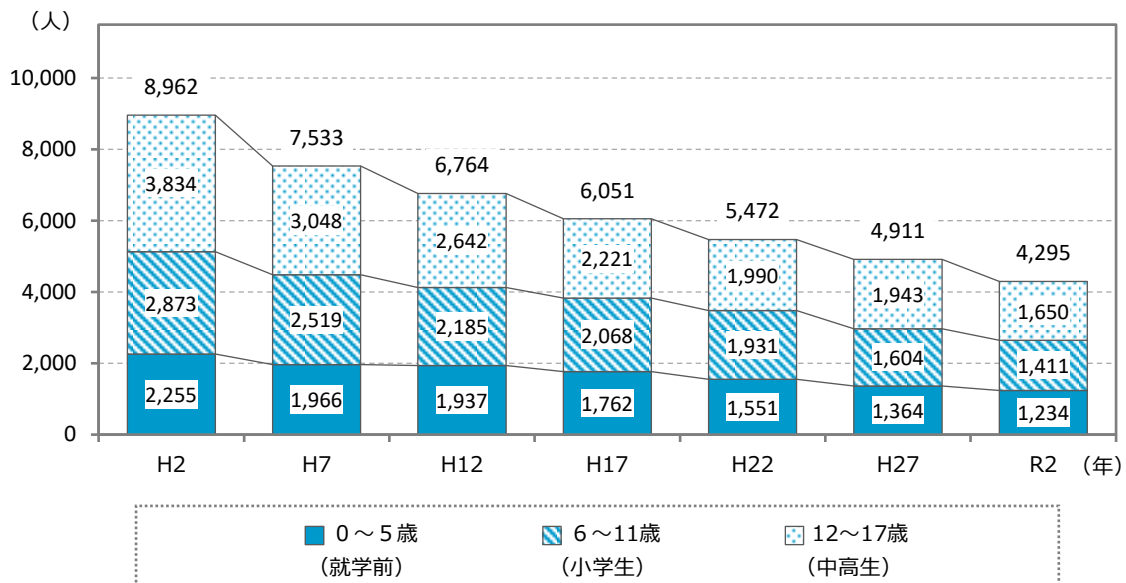
また、こどもの人口を平成 2（1990）年～令和 2（2020）年の間で見ると、減少で推移しており、18 歳未満の人口は令和 2（2020）年では 4,295 人と、平成 2（1990）年時点の 47.9%と半数以下になっています。

■出生数・出生率の推移（平成 27（2015）年～令和 6（2024）年）



資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

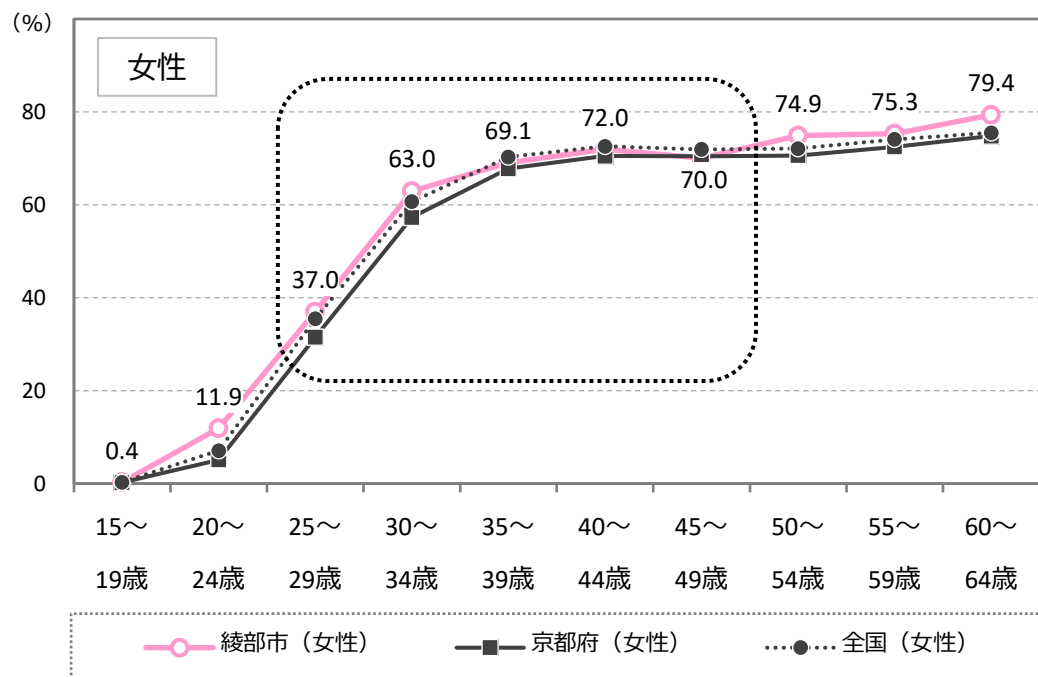
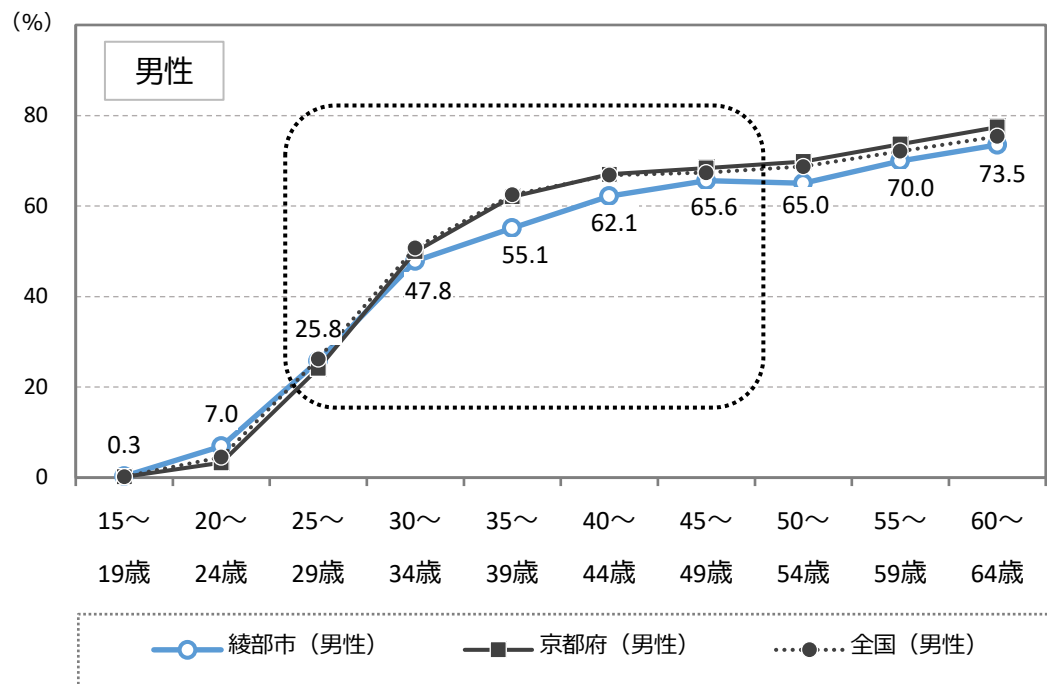
■こどもの人口の推移（平成 2（1990）年～令和 2（2020）年）



資料：総務省「国勢調査」

■男女別有配偶率（令和2（2020）年）

婚姻の状況を有配偶率で見ると、子育ての中心世代（25～49歳）では、全国及び府と比べて、男性は35～44歳でやや低く、女性は概ね同程度となっています。

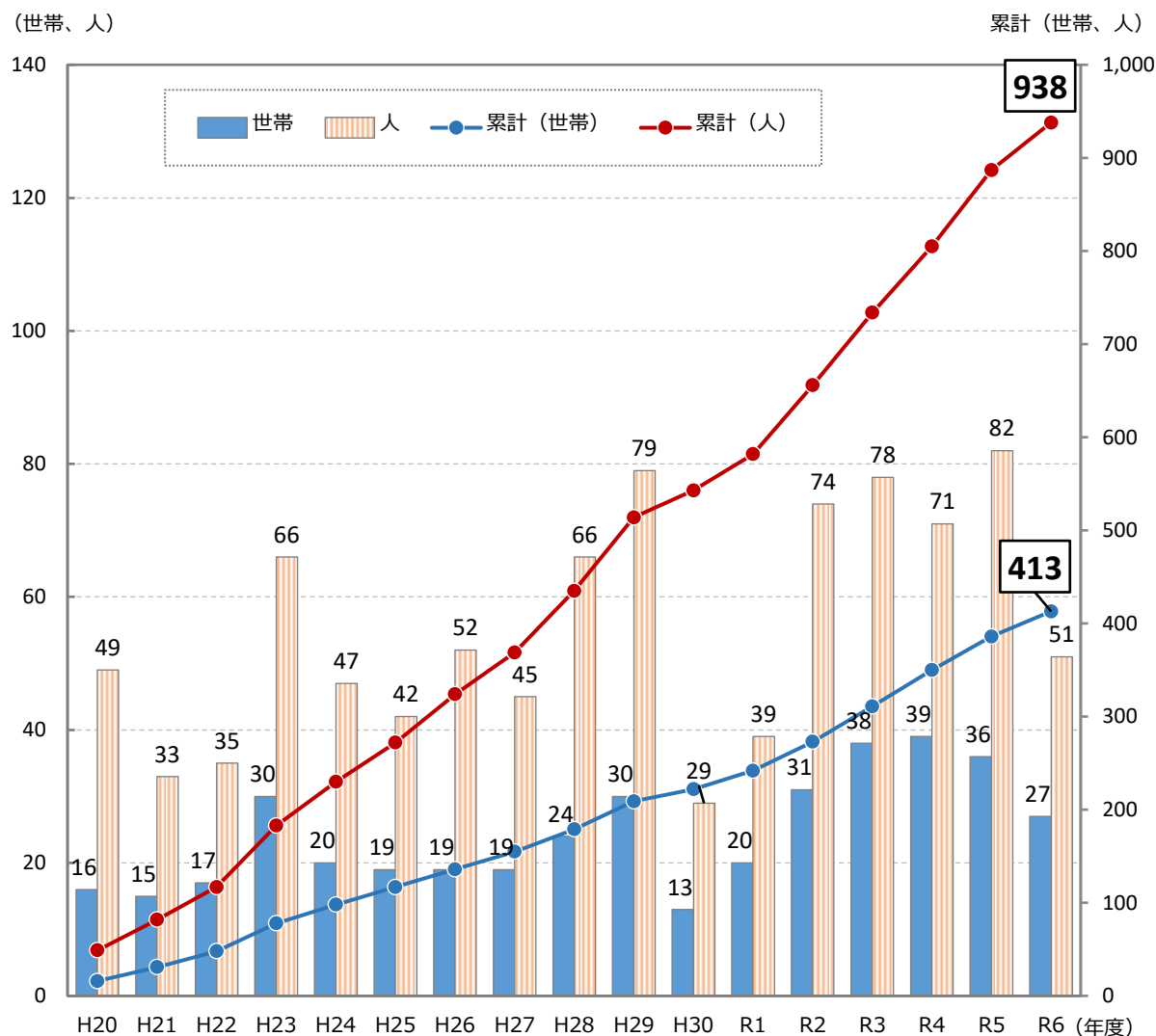


資料：総務省「国勢調査」（令和2年）

■定住サポートによる定住実績（平成 20（2008）年度～令和 6（2024）年度）

平成 20（2008）年度に「定住サポート総合窓口」を設置して以降、世帯数・移住者ともに増加傾向で推移しており、令和 6（2024）年度は移住者数 51 人、移住世帯が 27 世帯となりました。

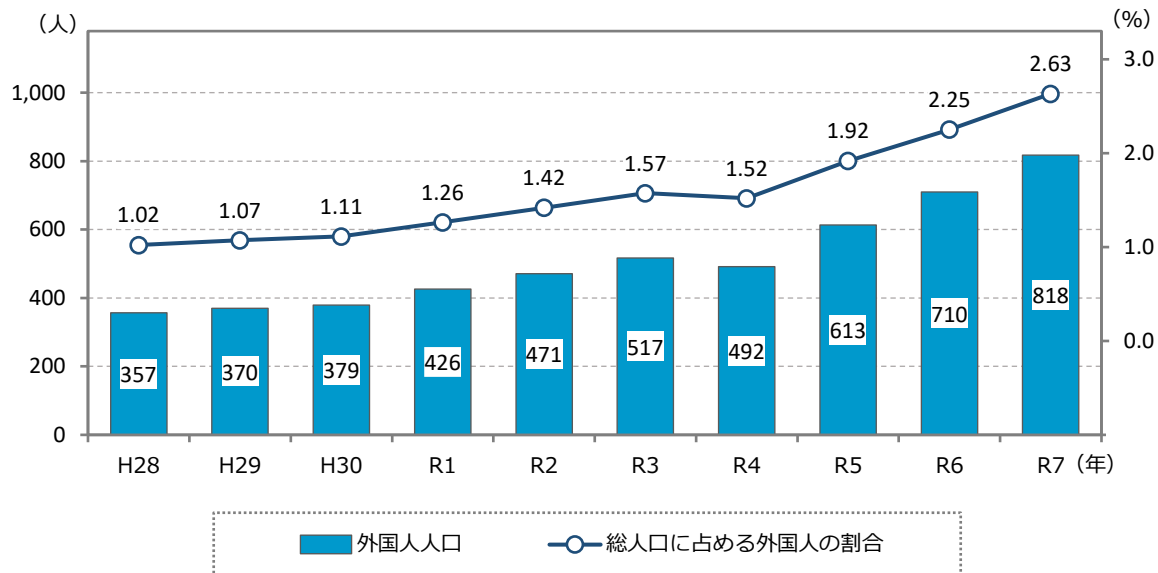
平成 20（2008）年度から令和 6（2024）年度にかけて累積で見ると、移住者数 938 人、移住世帯 413 世帯となっています。



資料：綾部市定住・地域政策課

■外国人人口の推移（平成 28（2016）年～令和 7（2025）年）

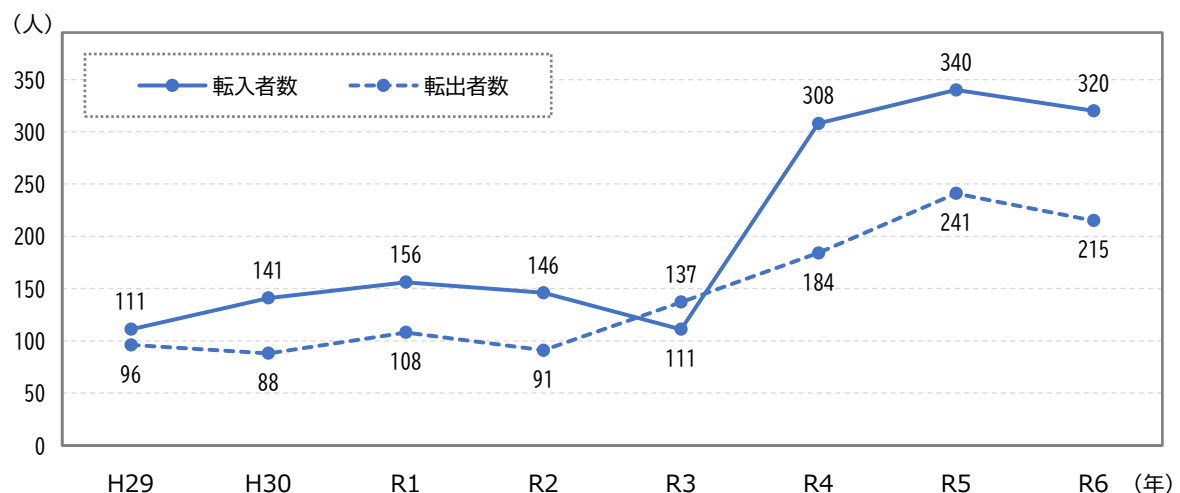
外国人人口の状況を平成 28（2016）年～令和 7（2025）年の間で見ると、増加傾向で推移しており、令和 7（2025）年は、市の総人口に占める外国人の割合が 2.63%（818 人）と、近年で最も高くなりました。



資料：総務省「住民基本台帳」（各年 1 月 1 日時点）

■外国人の社会増減の推移（平成 29（2017）年～令和 6（2024）年）

外国人の社会増減の推移を平成 29（2017）年～令和 6（2024）年の間で見ると、概ね転入者が転出者を上回る社会増で推移しており、令和 6（2024）年は、転入者 320 人、転出者 215 人、社会増減数 105 人となりました。

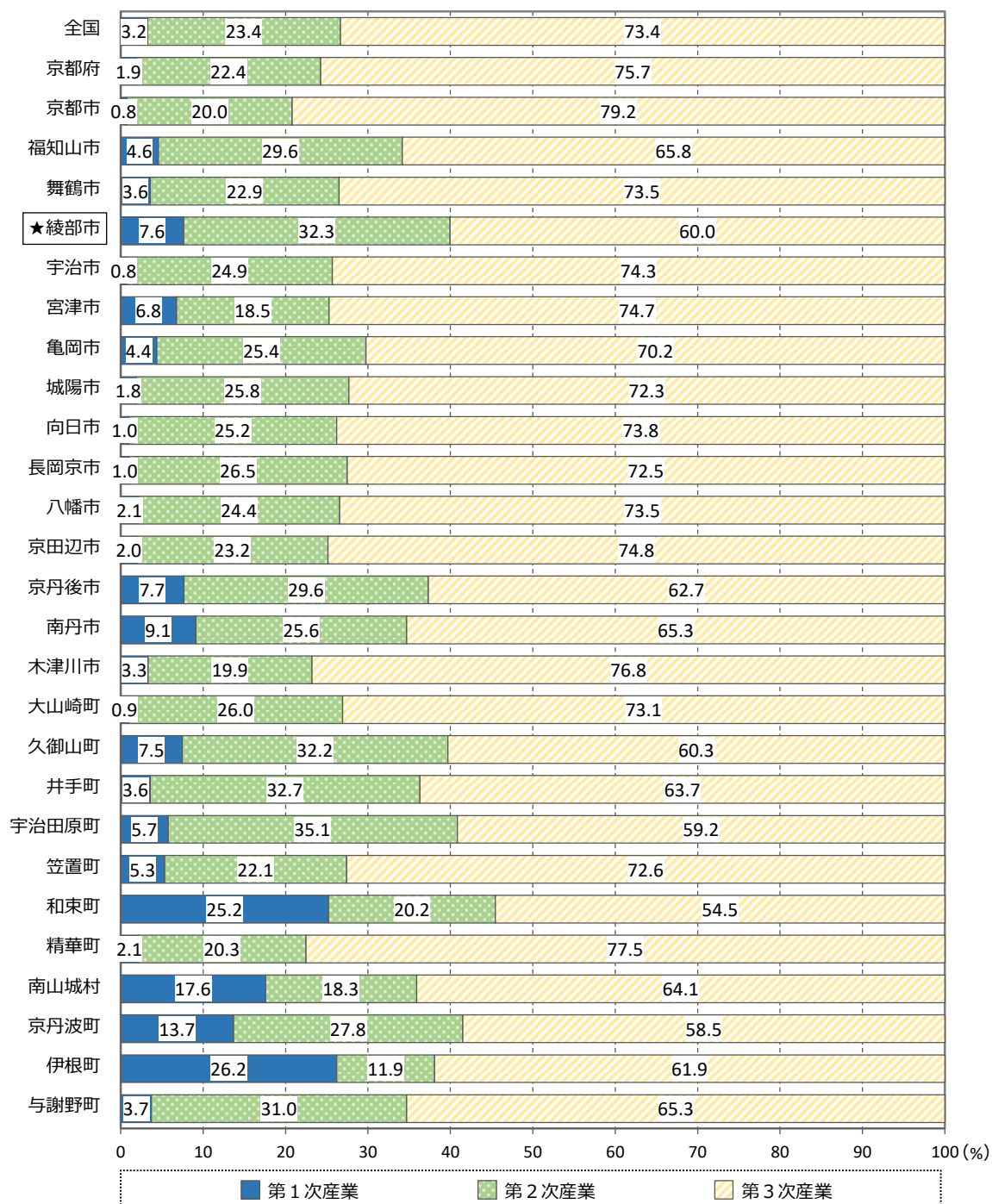


資料：総務省「住民基本台帳」

④産業の状況

■産業3部門別就業者割合（全国・府内市町村）（令和2（2020）年）

産業3部門別就業者割合を見ると、第1次産業※¹就業者の割合は7.6%、第2次産業※²就業者は32.3%、第3次産業※³就業者数は60.0%となっています。



資料：総務省「国勢調査」（令和2年）

※1「第1次産業」とは、農業、林業、漁業をさします。

※2「第2次産業」とは、鉱業、採石業、砂利採取業、建設業、製造業をさします。

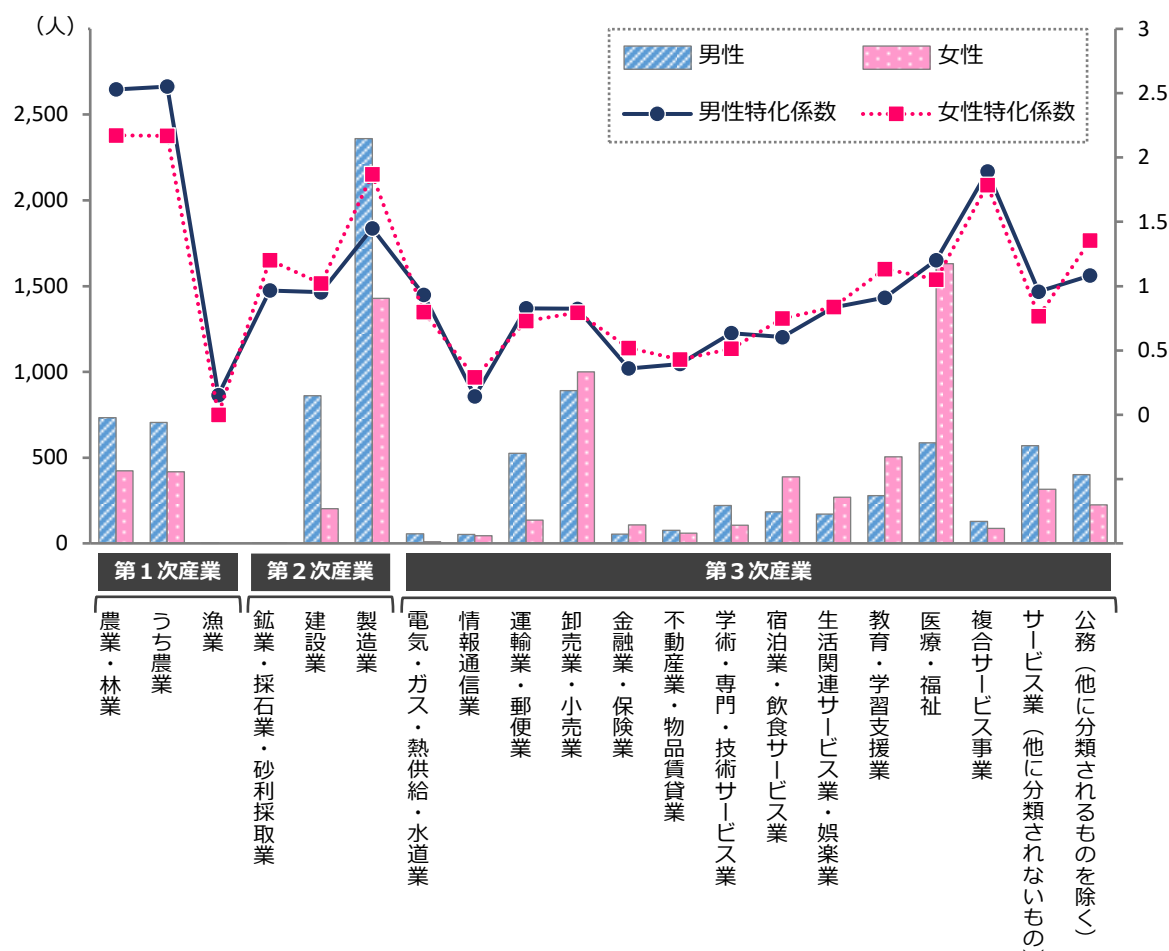
※3「第3次産業」とは、第1次及び第2次産業以外のサービス生産活動を主体とする全ての業種をさします。

■産業人口（男女別）（令和2（2020）年）

男女別産業人口を見ると、男性では「製造業」が最も多く、次いで「卸売業・小売業」、「建設業」の順となっています。

女性では「医療・福祉」が最も多く、次いで「製造業」、「卸売業・小売業」の順となっています。

特化係数※¹を見ると、「農業・林業」が最も高く、「複合サービス業※²」、「製造業」も高くなっています。



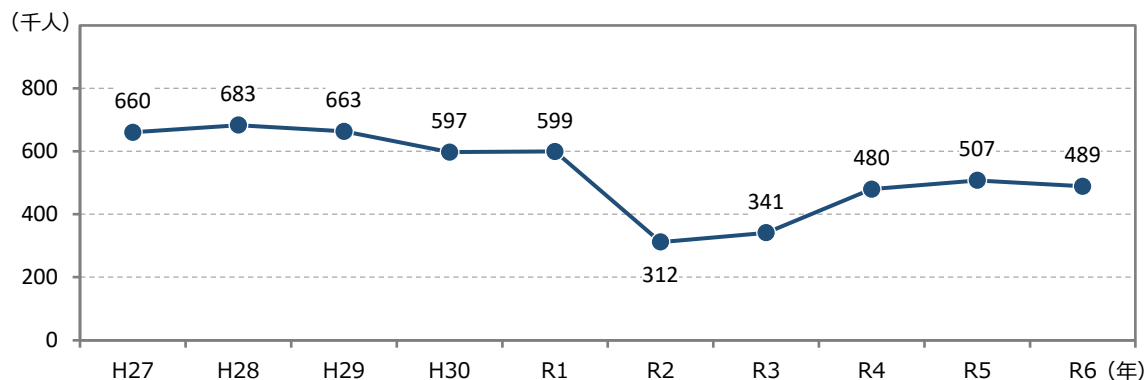
資料：総務省「国勢調査」（令和2年）

※1 「特化係数」とは、「自治体のX産業の就業者比率／全国のX産業の就業者比率」であり、自治体の強み・弱みを見るときに用いる。特化係数が1を上回ると強く1を下回ると弱いと判定する。

※2 「複合サービス業」とは、信用事業、保険事業又は共済事業と併せて複数の大分類にわたる各種のサービスを提供する事業所であって、法的に事業の種類や範囲が決められている郵便局、農業協同組合等が分類される。

■観光入込客数の推移（平成 27（2015）年～令和 6（2024）年）

観光入込客数は、令和元（2019）年までは 60 万人前後となっていました。コロナ禍の影響もあり観光入込客数は一時落ち込んだものの、それ以降は回復し、令和 6（2024）年はおおよそ 50 万人となっています。



資料：京都府観光入込客等調査報告書

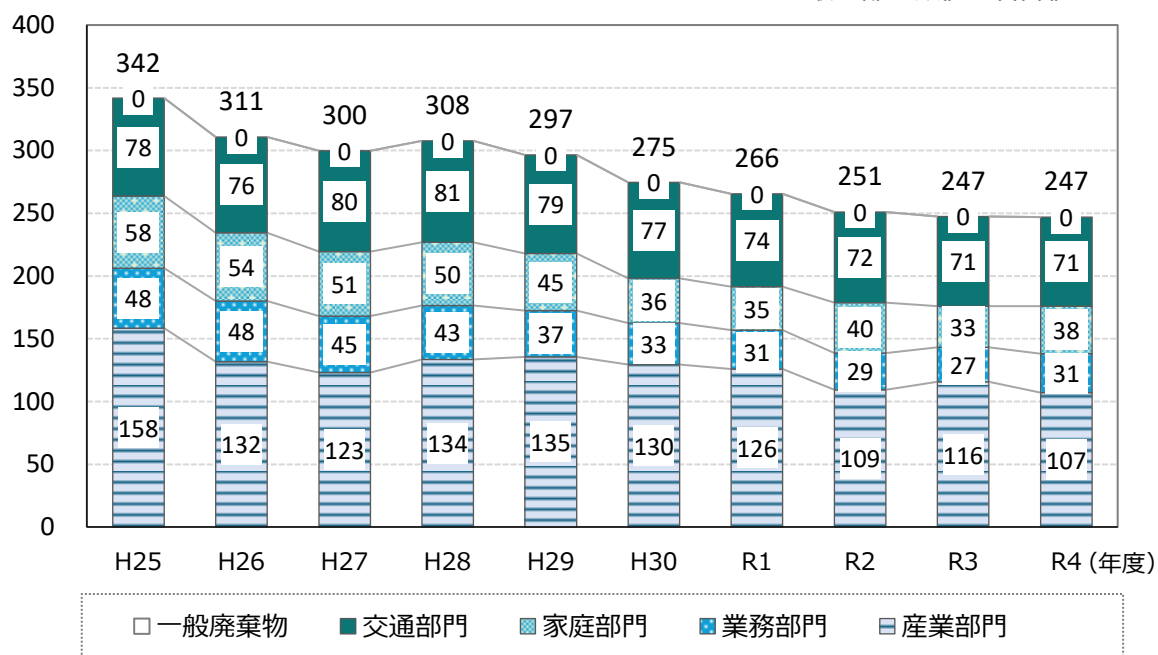
■二酸化炭素排出量（平成 25（2013）年度～令和 4（2022）年度）

市は令和 3（2021）年 9 月に、令和 32（2050）年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現に挑戦することを宣言しています。

二酸化炭素排出量の推移を平成 25（2013）年～令和 4（2022）年度の間で見ると、減少で推移しており、令和 4（2022）年度の二酸化炭素排出量の内訳は「産業部門」が 107 千 t-CO₂/年と最も多く、次いで、「交通部門」（71 千 t-CO₂/年）、「家庭部門」（38 千 t-CO₂/年）となっています。

（単位：千 t-CO₂）

グラフ最上部の数値は合計値



資料：綾部市エネルギー環境基本計画

⑤財政の状況

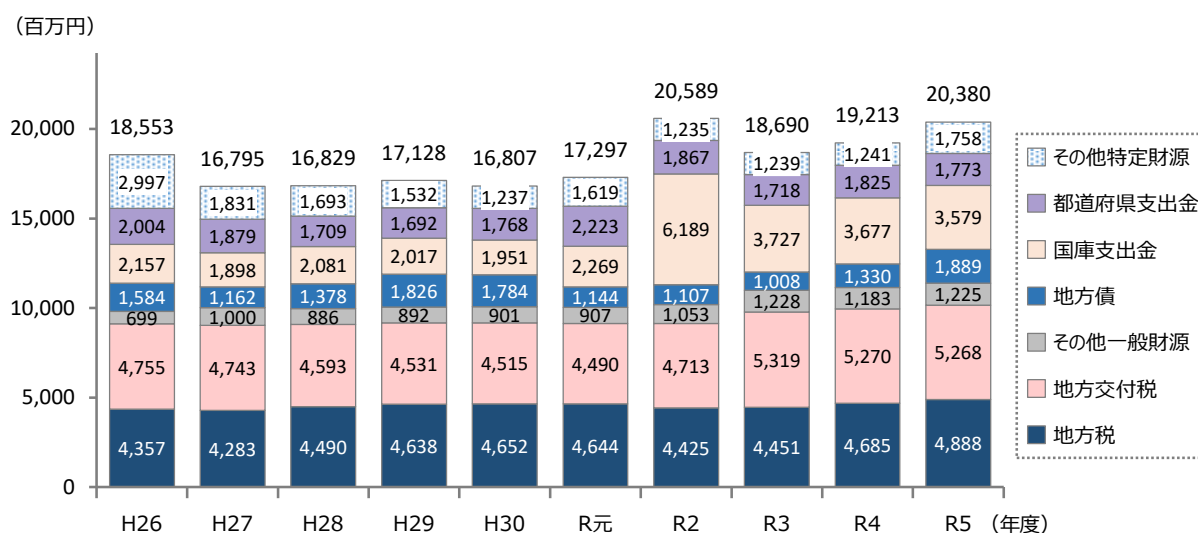
■歳入・歳出決算額の推移

令和5年度の普通会計における歳入総額は20,380百万円、歳出総額は20,303百万円となっています。

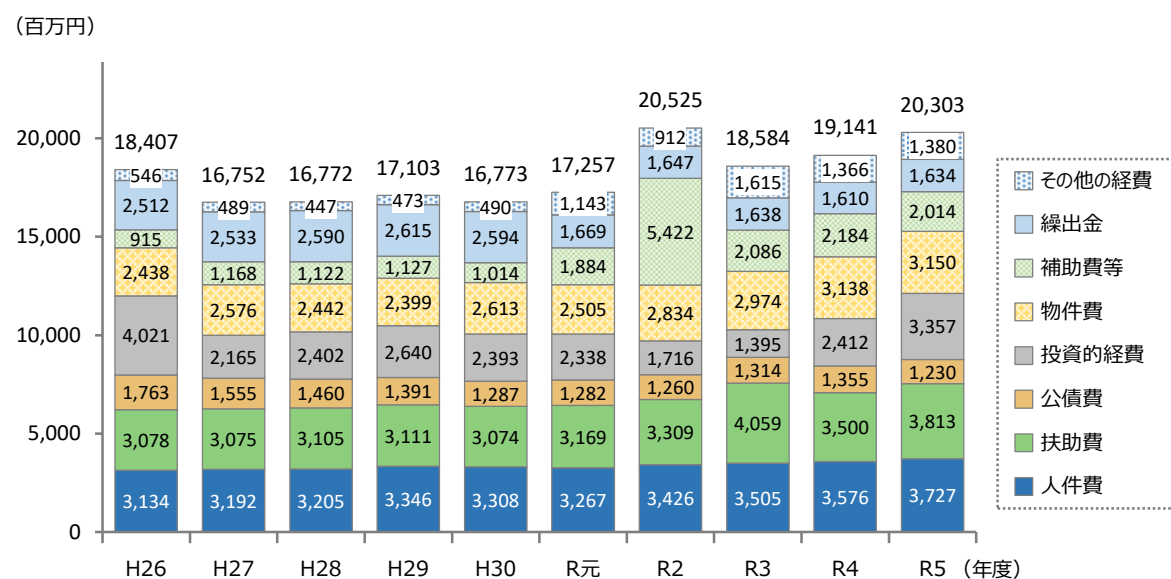
令和5年度の歳入を見ると、令和4年度と比較して6.1%増加しました。地方交付税や国庫支出金に依存する比率が高い財政運営となっています。

令和5年度の歳出を見ると、令和4年度と比較して6.1%増加しました。価格高騰緊急支援給付金支給のための経費や駅北複合施設整備事業・消防救急デジタル無線整備事業、令和5年度発生 of 豪雨災害や台風第7号災害に伴う災害復旧事業の増加が主な理由となっています。

【歳入決算額の推移】



【歳出決算額の推移】



資料:総務省「地方財政状況調査」

4. 各種意識調査等からみるポイント

①市民意見交換会の結果概要

- | |
|--|
| ◆主 旨：広く市民から意見や提案を聞く機会とし、多様な視点から本市の未来を共に考え、市民の視点から現状の共有と将来に向けた提案を実施 |
| ◆開催時期：令和6年12月17日 |
| ◆場 所：綾部市ものづくり交流館 |
| ◆参 加 者：市民公募15人、自治会連合会関係17人、福知山公立大学地域経営学部谷口ゼミ生13人、市職員8人
ファシリテーター 谷口知弘（福知山公立大学地域経営学部教授） |

■主な意見の整理

【前半：4テーマに関する意見交換】

子育て：多忙な若年世代と地域の関わりの希薄化が課題。産後ケアや出会いの場の創出、自治会の運営方法見直しを求める声が挙がった。

土地利用：空き家取得やイベント活用等、「使う視点」の提案が多数挙がった。女性参画や支援制度の拡充も議論された。

多文化共生：言葉・制度・心の壁への対応を求める声が多く、市役所窓口の整備や生活情報の多言語発信の必要性が挙がった。

デジタル活用：病院の順番通知や交通手段の見える化等、生活に直結するDXのアイデアが出された。

【後半：Keep／Problem／Tryの視点からの未来づくり】

Keep（魅力）：人のあたたかさ、自然、子育て支援、移住環境、デジタル活用への意欲等が挙がった。

Problem（課題）：人口減少、高齢化、自治会の負担、地域間格差、インフラの老朽化、防災体制の弱さ等が共通課題として挙がった。

Try（挑戦・提案）：外国人支援の強化、空き家・観光・イベント活用、デジタル化推進、女性の参画、若者の地域交流機会の創出等、多様なアイデアが示された。



■ワークショップの結果からみる課題等

評価・ポジティブな意見

- ・自然の豊かさに対する高い評価が多くのグループから挙がり、地域の魅力として再確認された。
- ・外国人や移住者への受入れ機運の高まりに対し、肯定的・前向きな意見が多く見られた。

- ・子育て支援体制の充実について、「制度が整っている」「支援が行き届いている」との評価が複数挙がった。
- ・デジタル化やアプリ活用に前向きな行政姿勢を評価する声があり、さらなる展開への期待感が見られた。
- ・人とのつながりや地域のあたたかさを魅力として挙げる意見が多く、人情味のある地域性が市民にとって重要であるとの声が挙がった。

課題・懸念として挙げられた意見

- ・人口減少と高齢化の進行を多くのグループが深刻な課題として認識しており、持続可能な地域運営への懸念が強く示された。
- ・外国人への行政対応や相談体制の不足が指摘され、窓口整備や情報発信の改善要望が挙がった。
- ・交通手段の不足やインフラ老朽化、地域間格差が課題として挙がり、特にコンパクトシティの方向性への疑問を持つ声も挙がった。
- ・地域活動と若い世代・子育て世帯との関係性の希薄さが課題視され、地域参加の在り方を見直す必要性が示された。
- ・デジタル化の進展によるデジタルデバイド（情報格差）に関する懸念もあり、高齢者等への配慮を求める意見が出された。

■今後の方向性

市民意見交換会を通じて、多くの参加者が綾部市の自然や人とのつながり、子育て支援制度等に魅力を感じていることが明らかになった。一方で、人口減少・高齢化・交通課題・多文化共生への対応不足等、持続可能な地域運営に向けた課題も挙がった。

本計画において、“誰もが暮らし続けたいと思えるまち”の実現に向け、今後は以下のような視点が求められます。

- ・自然や人とのつながりといった地域資源を生かし、暮らしの魅力を持続的に発信・活用するまちづくりの推進
- ・高齢化・人口減少に対応した生活インフラの整備と交通利便性の確保、地域間格差の是正
- ・外国人や子育て世代を含む多様な住民が参加しやすい、地域活動や制度設計の工夫
- ・デジタル活用の推進と同時に、情報格差（デジタルデバイド）への配慮を両立した環境整備

市民の声を基に、地域の課題と可能性を正しく見つめ、将来にわたって安心して暮らせる綾部市の実現に向けて、計画的かつ着実な取組の推進が求められます。

②高校生意見交換会の結果概要

- ◆主 旨：次代を担う高校生の思いや考えを聞く機会として意見交換を実施
- ◆開催時期：令和6年11月28日
- ◆場 所：綾部高等学校 四尾山キャンパス
- ◆参 加 者：綾部高等学校2年生 62人、福知山公立大学地域経営学部谷口ゼミ生 15人、綾部市市民憲章推進協議会役員 3人
ファシリテーター 谷口知弘（福知山公立大学地域経営学部教授）

■主な意見の整理

【第1ラウンド】将来の夢・希望（5年後）

- ・進学や職業に関する希望として、多くの生徒が大学進学を目指しており、特に医療・教育・国際分野に関心が集中。国家資格取得や語学力の向上を目指す声が目立った。
- ・生活・環境に関する希望として、一人暮らしへの憧れ、都会志向の傾向が強い一方、「自然がある落ち着いた地域」や「友人・家族とのつながり」を大切にする生徒も見られた。
- ・ライフスタイルの志向として、「楽しく生きたい」「幸せになりたい」「安定した生活を送りたい」等、自己実現や心の豊かさを重視する声が多く挙がった。

【第2ラウンド】夢・希望を実現するための不安要素

- ・経済的不安として、進学・就職・一人暮らしに伴う生活費や学費等、経済的なハードルへの不安の声が多く挙げられた。
- ・生活・環境への不安として、家事や通学、交通の便の悪さ、知らない土地への適応、メンタル面等「自立」への課題が共通して挙がった。
- ・国家試験合格、語学力、受験の成功等、将来への学力不安が多く寄せられた。
- ・支援の在り方として、高校や地域からの進路支援・情報提供に対する期待も多く、一部の生徒からは「専門進学や就職に向けたサポートが薄い」との声が挙がった。



■今後の方向性

高校生の意見からは、「自分らしく将来を切り開きたい」という前向きな意欲が感じられる一方で、その実現に向けては経済的・心理的・生活環境面での不安が複合的に存在していることが明らかになりました。

特に以下のような視点が、今後のまちづくりに求められます。

- ・ 学びや進路選択を支える地域の役割

進学・就職に不安を抱える生徒の声からは、学校外でも「地域からの情報提供やサポート」が期待されている。キャリア教育・地元企業との接点づくり・学習支援体制の強化が検討される。

- ・ “選ばれるまち” に向けた環境の整備

交通や生活費、住宅・家事への不安は、将来的な定住やUターン希望にも影響を与えることから、若者向けの住環境整備や移動支援、生活支援制度の分かりやすい発信が必要とされる。

- ・ 進学・就労への不安の軽減と支援

中高生の進路不安を地域でどう支えるかが重要なため、学校と地域、保護者、行政が連携した「学び・進路サポート体制」の整備が望まれる。

- ・ 心の健康や地域とのつながりへの配慮

進学や一人暮らしに対する心理的な不安も多く、「相談できる人がいない」という課題も一部で挙がったため、若者が地域内外で孤立しないよう、相談窓口や居場所、地域との関係性の構築が重要となる。

今後の地域施策を推進するうえで、これらの次代を担う高校生の声をより積極的に取り入れ、「まちの未来をともに描く主役」としての関わりを広げていくことが重要です。

③住民意識調査の結果概要

◆調査時期：令和6年9月

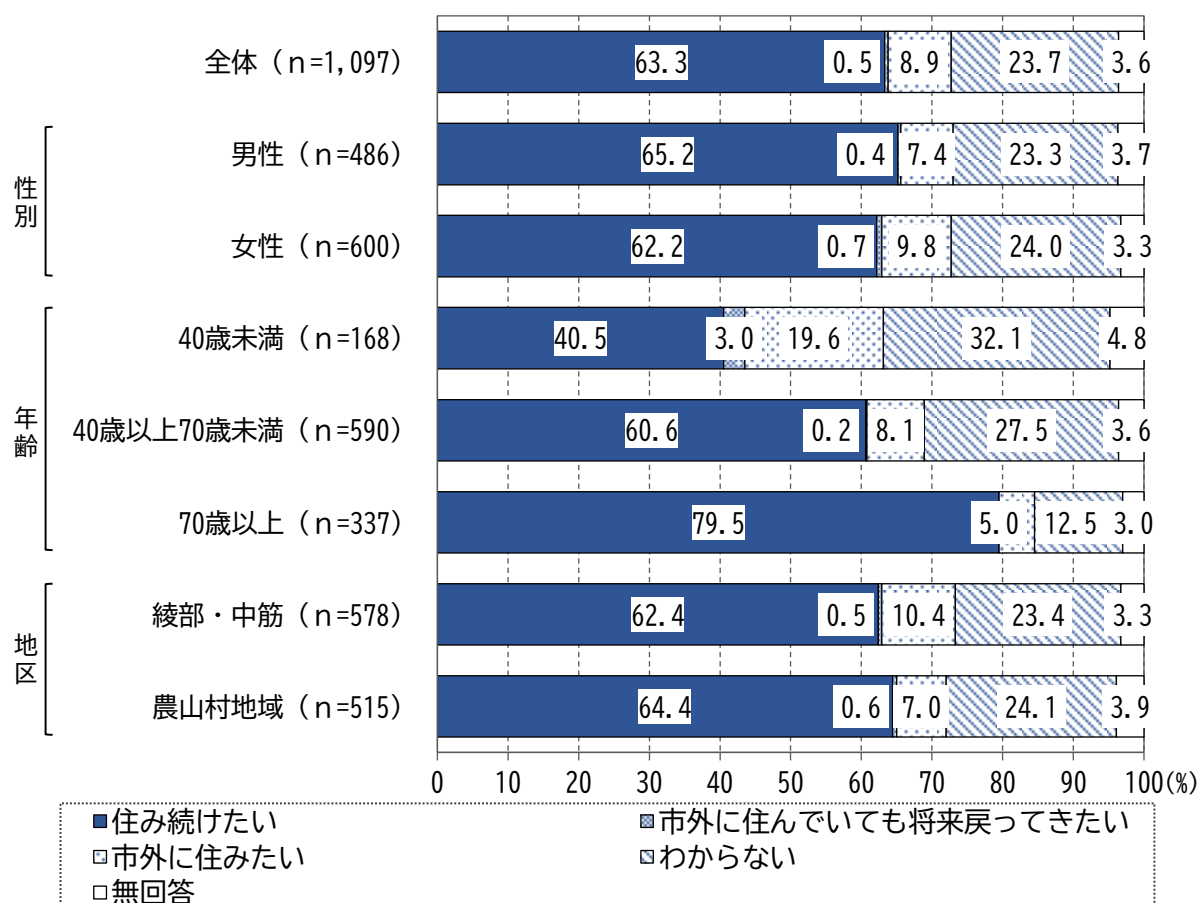
◆対 象：16歳以上の市民

配布方法	配布数	回収数	回収率
郵送法（郵送による配布・回収）及びWEBアンケート	3,000 票	1,097 票	36.6%

1 住民の定住意向について

全体では、「住み続けたい」が63.3%と最も高く、次いで、「わからない」（23.7%）、「市外に住みたい」（8.9%）の順となっています。
年齢層別で見ると、他の年齢層と比べて、40歳未満で「住み続けたい」の割合が低く、「市外に住みたい」の割合が高くなっています。

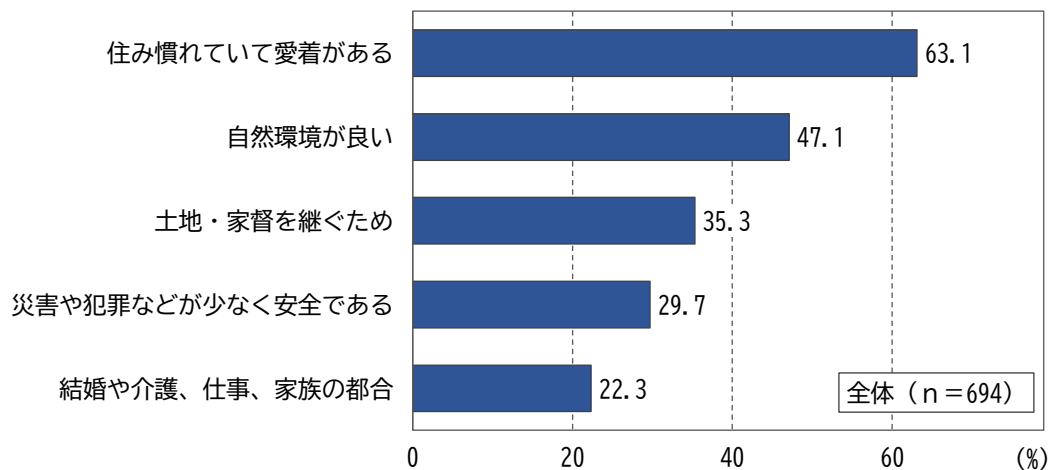
【問】 これからも綾部市に住み続けたいと思いますか。



2 綾部市に住みたい理由

「住み慣れていて愛着がある」が63.1%と最も高く、次いで、「自然環境が良い」(47.1%)、「土地・家督を継ぐため」(35.3%)の順となっています。

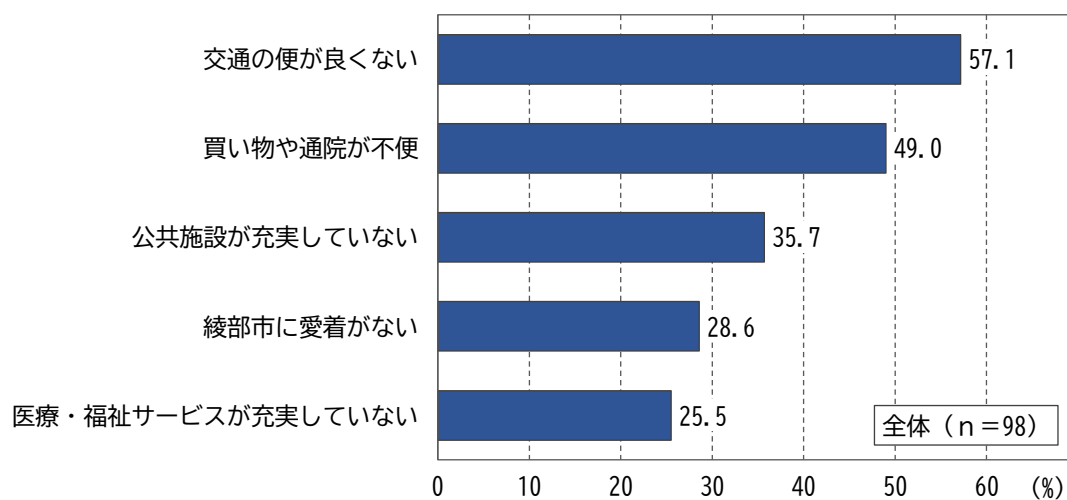
【問】綾部市で住みたいと思う理由は何ですか。(上位5番目までグラフ化しています。)



3 綾部市に住みたくない理由

「交通の便が良くない」が57.1%と最も高く、次いで、「買い物や通院が不便」(49.0%)、「公共施設が充実していない」(35.7%)の順となっています。

【問】綾部市に住みたくない理由は何ですか。(上位5番目までグラフ化しています。)



4 綾部市の取組の「満足度」と「重要度」

本市の施策（29 項目）について、「現状に対する満足度」と「今後の重要度」について質問しました。「現状に対する満足度」と「今後の重要度」の回答結果に基づき、以下の配点により点数化を行いました。

<評価点の算出方法>

現状に対する満足度			今後の重要度		
高 ↑ 低	満足度 5	5 点	高 ↑ 低	重要度 5	5 点
	満足度 4	4 点		重要度 4	4 点
	満足度 3	3 点		重要度 3	3 点
	満足度 2	2 点		重要度 2	2 点
	満足度 1	1 点		重要度 1	1 点

【算出方法】

各選択肢（5段階評価）の回答者数に回答ごとの点数（1～5点）を乗じ、その合計について、「無回答」を除く回答数で割った値をそれぞれの項目の評価点としました。

※この設問では、「満足度が低く、重要度が高い」（住民が最も対応を求めている施策項目）に着眼して、結果を以下のとおり整理しています。

【全体評価】

- 「6-3 公共交通の充実」が、最も満足度が低く重要度が高いところに位置していることから、誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの構築づくりに関する施策の充実等が求められます。

【分野別評価】

- 平和をねがい、祈りあるまちの分野では、満足度が低く重要度が高いところに位置している施策項目はなく、すべて満足度が高いところに位置しています。重要度で見ると、「1-3 防災対策の推進」・「1-4 消防・救急体制の充実」・「1-5 生活の安全性の向上」が、高いところに位置しています。
- 自治を高め、心のつながりのあるまちの分野では、満足度が低く重要度が高いところに位置している施策項目はありませんが、「2-1 市民活動の促進と地域の活性化」・「2-2 男女共同参画社会の実現」・「2-4 健全な行財政運営と広域連携」が、満足度が低いところに位置しています。
- 教育をたいせつにし、文化のかおるまちの分野では、満足度が低く重要度が高いところに位置している施策項目はありませんが、「3-3 青少年健全育成の推進」が、満足度が低いところに位置しています。
- 環境をととのえ、健康のあふれるまちの分野では、「4-7 医療体制の充実」が、満足度が低く重要度が高いところに位置していることから、誰もが安心して、適切な医療が受けられる医療体制の確保等が求められます。
- 産業をおこし、豊かなくらしのあるまちの分野では、「5-2 商工業の振興と雇用促進」が、満足度が低く重要度が高いところに位置していることから、新たな産業用地の確保や雇用の場の確保等が求められます。
- 計画を定め、輝かしいあしたをひらくまちの分野では、「6-3 公共交通の充実」・「6-4 上下水道の運営と整備」が、満足度が低く重要度が高いところに位置していることから、公共交通ネットワークの構築や安全で安心な水を安定的に供給するなど、誰もが快適に暮らせるまちづくり等が求められます。

■前回調査との評価点比較「満足度」（上位5、下位5）

今回調査の項目	満足度	前回調査の項目	満足度
消防・救急体制の充実	59.2	消防・救急体制の充実	63.9
生活の安全性の向上	56.1	上水道の安定供給	63.7
環境保全と廃棄物対策の推進	55.9	平和の発信と交流	61.8
人権尊重社会の実現	54.6	人権尊重社会の実現	59.8
高齢者福祉の推進	54.6	生活の安全性の向上	59.1
農林業・内水面漁業の振興	46.7	農林業・内水面漁業の振興	47.3
道路・公園の整備	46.0	地元雇用の確保	45.9
土地利用と市街地の形成	45.3	農村の活性化	44.6
観光と交流の推進	44.6	公共交通の充実	44.2
公共交通の充実	42.7	商業の振興	43.1

■前回調査との評価点比較「重要度」（上位5、下位5）

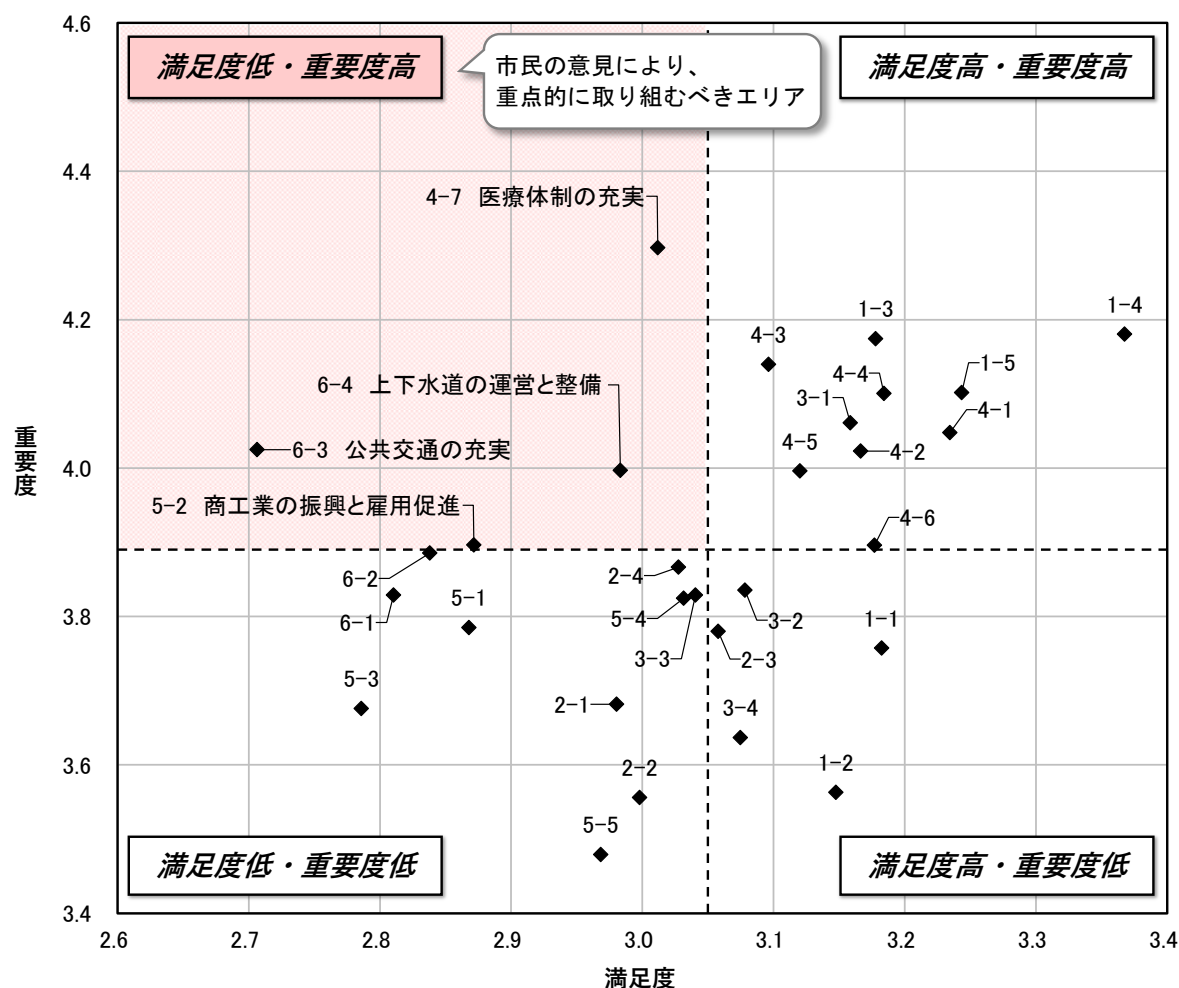
今回調査の項目	重要度	前回調査の項目	重要度
医療体制の充実	82.4	医療体制の充実	87.2
消防・救急体制の充実	79.5	子育て環境の充実	84.9
防災対策の推進	79.4	高齢者福祉の推進	84.4
子育て環境の充実	78.5	防災対策の推進	84.1
生活の安全性の向上	77.5	学校教育の充実	83.5
高齢者福祉の推進	77.5		
農林業・内水面漁業の振興	69.6	地域情報化の推進	70.5
文化・芸術の振興	65.9	男女共同参画社会の実現	69.0
平和の発信と国際交流	64.1	市民活動の促進	68.8
男女共同参画社会の実現	63.9	斎場・墓地の適正管理	68.0
スポーツの振興	62.0	公園・緑地空間の充実	67.9

■今回調査の評価点一覧

※平均点以上の項目に網掛けをしています。

基本目標	項目	満足度	重要度	ギャップ
基本目標1 平和をねがい、 祈りのあるまち	1-1 人権尊重社会の実現	54.6	68.9	14.4
	1-2 平和の発信と国際交流	53.7	64.1	10.4
	1-3 防災対策の推進	54.4	79.4	24.9
	1-4 消防・救急体制の充実	59.2	79.5	20.3
	1-5 生活の安全性の向上	56.1	77.5	21.5
基本目標2 自治を高め、 心のつながりの あるまち	2-1 市民活動の促進と地域の活性化	49.5	67.0	17.5
	2-2 男女共同参画社会の実現	50.0	63.9	13.9
	2-3 情報の発信と共有	51.4	69.5	18.0
	2-4 健全な行財政運営と広域連携	50.7	71.7	21.0
基本目標3 教育をたいせつに し、 文化のかおるまち	3-1 幼稚園、小・中学校教育の充実	54.0	76.5	22.6
	3-2 社会教育の充実	52.0	70.9	18.9
	3-3 青少年健全育成の推進	51.0	70.7	19.7
	3-4 文化・芸術の振興	51.9	65.9	14.0
基本目標4 環境をととのえ、 健康のあふれるまち	4-1 環境保全と廃棄物対策の推進	55.9	76.2	20.3
	4-2 地域福祉社会の実現	54.2	75.6	21.4
	4-3 子育て環境の充実	52.4	78.5	26.1
	4-4 高齢者福祉の推進	54.6	77.5	22.9
	4-5 障害者福祉の推進	53.0	74.9	21.9
	4-6 保健の推進	54.4	72.4	18.0
	4-7 医療体制の充実	50.3	82.4	32.1
基本目標5 産業をおこし、 豊かなくらしの あるまち	5-1 農林業・内水面漁業の振興	46.7	69.6	22.9
	5-2 商工業の振興と雇用促進	46.8	72.4	25.6
	5-3 観光と交流の推進	44.6	66.9	22.3
	5-4 移住・定住の促進	50.8	70.6	19.8
	5-5 スポーツの振興	49.2	62.0	12.8
基本目標6 計画を定め、 輝かしいあしたを ひらくまち	6-1 土地利用と市街地の形成	45.3	70.7	25.5
	6-2 道路・公園の整備	46.0	72.1	26.2
	6-3 公共交通の充実	42.7	75.6	33.0
	6-4 上下水道の運営と整備	49.6	74.9	25.3
平均		51.2	72.3	21.1

満足度・重要度の相関図



1-1 人権尊重社会の実現	3-2 社会教育の充実	5-1 農林業・内水面漁業の振興
1-2 平和の発信と国際交流	3-3 青少年健全育成の推進	5-2 商工業の振興と雇用促進
1-3 防災対策の推進	3-4 文化・芸術の振興	5-3 観光と交流の推進
1-4 消防・救急体制の充実	4-1 環境保全と廃棄物対策の推進	5-4 移住・定住の促進
1-5 生活の安全性の向上	4-2 地域福祉社会の実現	5-5 スポーツの振興
2-1 市民活動の促進と地域の活性化	4-3 子育て環境の充実	6-1 土地利用と市街地の形成
2-2 男女共同参画社会の実現	4-4 高齢者福祉の推進	6-2 道路・公園の整備
2-3 情報の発信と共有	4-5 障害者福祉の推進	6-3 公共交通の充実
2-4 健全な行財政運営と広域連携	4-6 保健の推進	6-4 上下水道の運営と整備
3-1 幼稚園、小・中学校教育の充実	4-7 医療体制の充実	

基本目標 1 平和をねがい、祈りのあるまち：1-1～1-5

基本目標 2 自治を高め、心のつながりのあるまち：2-1～2-4

基本目標 3 教育をたいせつにし、文化のかおるまち：3-1～3-4

基本目標 4 環境をととのえ、健康のあふれるまち：4-1～4-7

基本目標 5 産業をおこし、豊かなくらしのあるまち：5-1～5-5

基本目標 6 計画を定め、輝かしいあしたをひらくまち：6-1～6-4

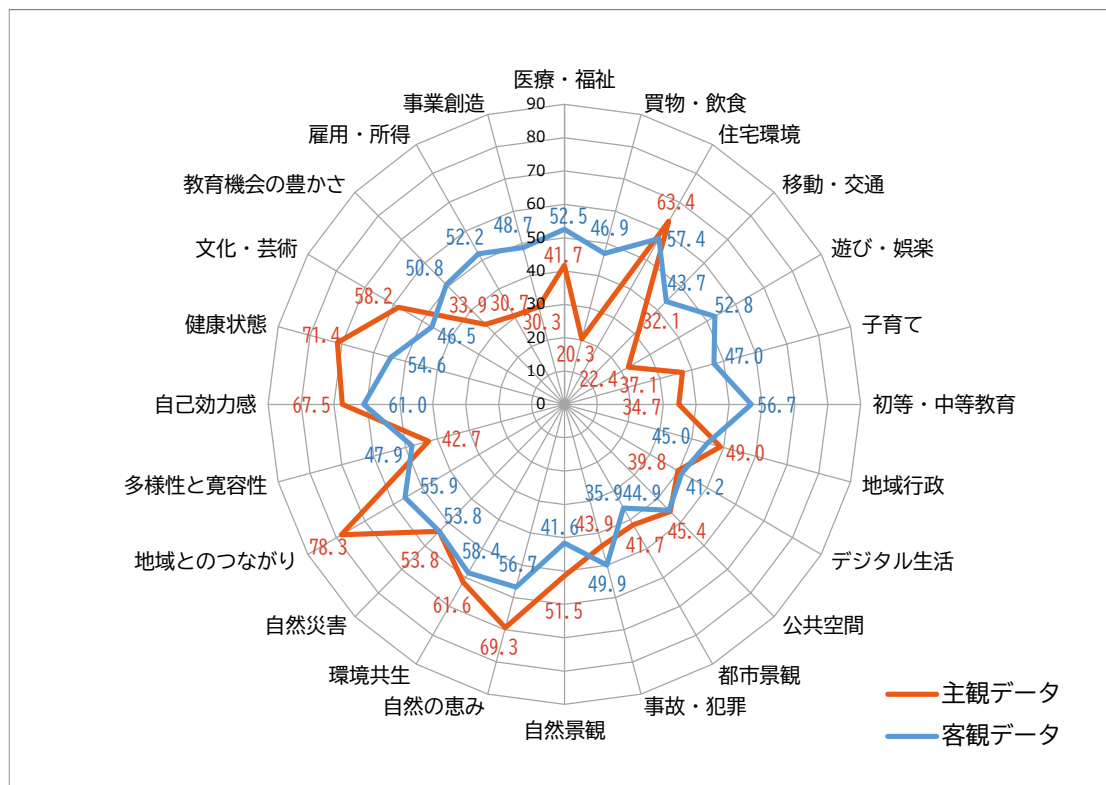
5 地域幸福度(Well-Being)指標について

住民意識調査において「主観指標」を測る設問を設定して質問しました。なお、地域幸福度(Well-Being)指標とは、「主観指標」と「客観指標」のデータをバランスよく活用し、住民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-being)」を指標で数値化・可視化する新たな取組であり、国のデジタル庁が先導して全国の自治体で実施されています。

◆地域幸福度(Well-Being)指標の考え方◆

地域幸福度(Well-Being)指標は、地域ごとの住民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-being)」を数値化・可視化するものであり、「50」という基準値を基に、数値が低ければ「弱み」、数値が高ければ「強み」と評価します。なお、「主観指標」は、今回の住民意識調査で得た結果をもとに偏差値に置き換えた数値であり、「客観指標」は、本市の状況を示すオープンデータを基に国が自治体ごとに偏差値に置き換えた数値です。

■綾部市の地域幸福度(Well-Being)指標の結果



- 主観データを見ると、「地域とのつながり」や「健康状態」、「自然の恵み」等で高いスコア。
- 客観データを見ると、「自己効力感」や「環境共生」、「住宅環境」等で高いスコア。
- 主観データが客観データを大きく上回る（＝住民自身が感じる幸福度や満足度が、統計的に測定された客観的な指標よりも高い）ものは、「自然の恵み」、「地域とのつながり」、「健康状態」となった。
- 客観データが主観データを大きく上回る（＝統計的に測定された幸福度や満足度が、住民自身が感じる幸福度や満足度よりも高い）ものは「買物・飲食」、「遊び・娯楽」、「初等・中等教育」となった。

※平均点以上の項目に網掛けをしています。

年度	因子群	カテゴリ・評価 指標	主観データ	客観データ	ギャップ
2024 年度版	生活環境	医療・福祉	41.7	52.5	10.8
2024 年度版	生活環境	買物・飲食	20.3	46.9	26.6
2024 年度版	生活環境	住宅環境	63.4	57.4	6.0
2024 年度版	生活環境	移動・交通	32.1	43.7	11.6
2024 年度版	生活環境	遊び・娯楽	22.4	52.8	30.4
2024 年度版	生活環境	子育て	37.1	47.0	9.9
2024 年度版	生活環境	初等・中等教育	34.7	56.7	22.0
2024 年度版	生活環境	地域行政	49.0	45.0	4.0
2024 年度版	生活環境	デジタル生活	39.8	41.2	1.4
2024 年度版	生活環境	公共空間	45.4	44.9	0.5
2024 年度版	生活環境	都市景観	41.7	35.9	5.8
2024 年度版	生活環境	事故・犯罪	43.9	49.9	6.0
2024 年度版	生活環境	自然景観	51.5	41.6	9.9
2024 年度版	生活環境	自然の恵み	69.3	56.7	12.6
2024 年度版	生活環境	環境共生	61.6	58.4	3.2
2024 年度版	生活環境	自然災害	53.8	53.8	0.0
2024 年度版	地域の人間関係	地域とのつながり	78.3	55.9	22.4
2024 年度版	地域の人間関係	多様性と寛容性	42.7	47.9	5.2
2024 年度版	自分らしい生き方	自己効力感	67.5	61.0	6.5
2024 年度版	自分らしい生き方	健康状態	71.4	54.6	16.8
2024 年度版	自分らしい生き方	文化・芸術	58.2	46.5	11.7
2024 年度版	自分らしい生き方	教育機会の豊かさ	33.9	50.8	16.9
2024 年度版	自分らしい生き方	雇用・所得	30.7	52.2	21.5
2024 年度版	自分らしい生き方	事業創造	30.3	48.7	18.4
平均値			46.7	50.1	

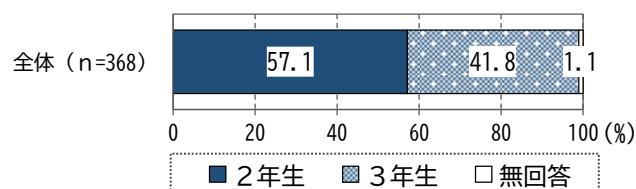
④中学生意識調査の結果概要

◆調査時期：令和6年9月

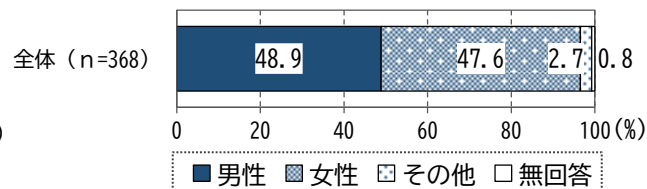
◆対象：市立中学校に通う中学2年生・3年生

配布方法	配布数	回収数	回収率
WEBアンケート	503 票	368 票	73.2%

【回答者の学年】



【回答者の性別】



1 綾部市の暮らしについて

■「綾部市は住みやすいところだと思うか」について、全体では、「とても住みやすい」と「住みやすい」を合わせた「住みやすい」は62.8%と半数を超えている。また、その理由としては、「自然が豊か」、「家族や友人、近所の人との関係がよい」、「住み慣れていて愛着がある」といった自然環境や住環境、愛着等によるものが大きい。

■一方で、「これからも綾部市に住み続けたいか」について、6割以上は、「わからない」もしくは「市外に住みたい」と答えており、「綾部市に住みたくない理由」について、「買物する場所が少ない」、「都会での生活にあこがれがある」、「働く場が少なく、選択肢が限られている」等が高くなっており、地域幸福度の主観データの通り、「買物・飲食」、「移動・交通」を不満に思う中学生が多い。

2 綾部市のイメージ

■「綾部市に対して、どのようなイメージを持っているか」について、「自然が豊かなまち」が81.8%と最も高く、次いで、「治安のよいまち」(28.5%)、「歴史・伝統が息づくまち」(20.9%)の順となっている。また、市外に住んでいても将来戻ってきたいと答えた者の理由は、「自然が豊か」、「家族や友人、近所の人との関係がよい」、「育った場所であり愛着がある」、「災害や犯罪等が少ない」が高くなっており、特に自然環境や治安の良さといった市のイメージが、将来市に戻ってきたいという大きな誘因になっていることが分かる。

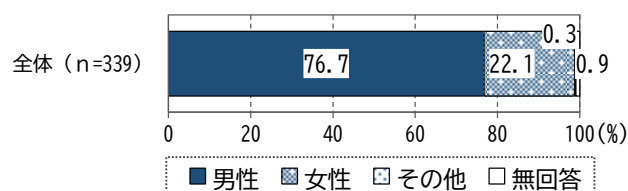
⑤企業従業員（市外在住）意識調査の結果概要

◆調査時期：令和6年9月

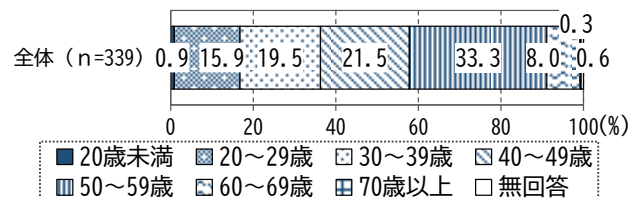
◆対 象：市内企業にお勤めの市外居住者

配布方法	配布数	回収数	回収率
郵送法（郵送による配布・回収）	1,000 票	339 票	33.9%

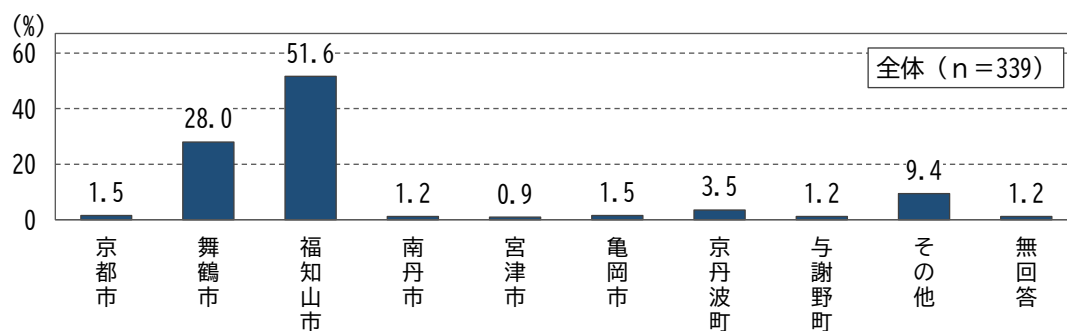
【回答者の性別】



【回答者の年代】



【回答者の居住地】



1 綾部市との関わりやイメージについて

■「綾部市に将来、住みたいか」について、全体では、「どちらともいえない」が42.4%と最も高く、次いで、「住みたくない」(41.9%)の順となった。また、「綾部市に住みたくないと思う理由」を見ると、「買物や通院が不便」、「まちに活気がない」、「交通の便が良くない」が高くなった。

■「綾部市に対して、どのようなイメージを持っているか」について、「イメージが浮かばない」が27.4%と一定の割合が見られるが、具体的な綾部市のイメージを見ると、「自然が豊かなまち」、「ものづくりのまち」、「治安のよいまち」が高い。

2 今後の綾部市について

■「今後、綾部市が特にどのような方向で人口減少対策を進めると良いか」について、「子どもを産み・育てやすくするための取組を進める」が24.9%と最も高く、次いで、「若者等の雇用の場の確保を進める」(20.6%)、「商業・観光の振興により、人口が少なくてもにぎわいのあるまちを目指す」(19.5%)の順となった。また、「今後、綾部市がどのようなまちになると良いと思うか」について、「商業が盛んで、買物に便利な、にぎわいのあるまち」、「出産、子育てをする環境が充実した、子育てしやすいまち」、「工業が発展した、ものづくりのまち」が高い。